

市内遺跡

平成18年度市内遺跡発掘調査事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

延岡市教育委員会

序 文

本書は、延岡市教育委員会が国県補助を受け実施した市内遺跡発掘調査事業の調査報告書です。

延岡市は宮崎県の北部に位置し、五ヶ瀬川水系の水力資源を利用した県内最大の電気化学工業集積地となっています。また、近世より県内随一の城下町として繁栄し、県北地域における教育文化・産業経済の牽引者としての役割を果たしています。

近年は、市民参加による「のべおか天下一薪能」や「城山かぐらまつり」などの開催や、九州保健福祉大学の開学をはじめ、悲願であった東九州自動車道の一翼を担う国道10号延岡道路や国道218号北方延岡道路の部分開通など、県北地域は大きな変革を迎えていました。さらに、昨年2月には合併特例法に基づく旧北方町、旧北浦町との合併に加えて本年3月末には旧北川町を迎え、九州内でも有数の市域面積をもつ都市として、伝承芸能や市民文化をはじめ、農林水産資源などが融合した活気あふれるまちづくりに歩みだしているところです。

本書が文化財保護への理解を深める一助となり、また、学術研究資料として広くご活用いただければ幸いです。

最後に、発掘調査にあたり宮崎県教育委員会文化財課をはじめ、地権者及び開発事業関係者のご協力を頂きましたことに対して、深く感謝いたします。

平成19年3月

延岡市教育委員会
教育長 牧野哲久

例　　言

1. 本書は、各種開発事業に伴い、延岡市教育委員会が国・県補助を受けて平成18年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。書名については、調査件数の増加もあり、本年度以降は「市内遺跡」に変更することとした。
2. 本年度は、旧延岡市内10箇所及び旧北方町内5箇所の試掘・確認調査を実施した他、個人農地改良に伴う曾木原遺跡(第5次)の発掘調査を実施した。
3. 年度末に調査した上多々良遺跡(第5次)、延岡城内遺跡(第16次)、行藤町茂須野地点及び曾木原遺跡(第3次・第5次)は次年度に報告する。
4. 本書に使用した遺構・遺物の実測・トレイス・図面作成は、小野信彦、山田　聰、尾方農一、高浦　哲、敷石サヨ子、山本敬子、藤本千鳥、森　有美、佐藤きみゑ、甲斐美智代、橋本継美が行った。
5. 現場及び遺物の写真撮影は各調査担当者が行った。
6. 方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海拔高である。
7. 出土遺物は延岡市教育委員会にて保管しており、今後展示公開の予定である。
8. 本書の執筆は各担当者が行い、編集は協議の上、山田があたった。



Fig. 1 延岡市位置図

本文目次

第1章　はじめに

1.はじめに	1
--------	---

第2章　調査の記録

1. 上多々良地区(第4次)	5
2. 川辺遺跡	8
3. 延岡城内(第14次)遺跡	9
4. 郡家原遺跡(第1次)	20
5. 上大瀬町出口地点	21
6. 幸町第1地点	25
7. 愛宕山第1遺跡	26
8. 稲葉崎町官田地点	30
9. 延岡城内遺跡(第15次)	32
10. 堂ノ上遺跡	40
11. 吉野遺跡(第8次)	43
12. 上崎地区遺跡(第7次-1区)	54
13. 上崎地区遺跡(第7次-2区)	55
14. 曽木原遺跡(第4次)	56
15. 角田上ノ原遺跡	57
16. 東原遺跡	58

報告書抄録

挿図目次

Fig. 1 延岡市位置図	Fig. 29 延岡城内遺跡(第15次)出土遺物実測図1(1/3)	28
Fig. 2 平成18年市内遺跡発掘調査地分布図(田延間町・1/80,000)	Fig. 30 愛宕山第2遺跡出土遺物実測図(1/2)	29
Fig. 3 平成18年夜市内遺跡発掘調査地分布図(II北方町・1/50,000)	Fig. 31 稲葉崎町宮田地点位置図(1/15,000)	30
Fig. 4 上多々良遺跡(第4次)位置図(1/15,000)	Fig. 32 稲葉崎町宮田地点位置図(1/1,500)	30
Fig. 5 上多々良遺跡(第4次)A地区調査区配図図(1/2,000)	Fig. 33 稲葉崎町官田地点地上断面図(1/80)	31
Fig. 6 上多々良遺跡(第4次)B地区調査区配図図(1/2,500)	Fig. 34 延岡城内遺跡(第15次)位置図(1/15,000)	32
Fig. 7 上多々良遺跡(第4次)上塙実測図(A 5地点・1/80)	Fig. 35 延岡城内遺跡(第15次)調査区配図図(1/2,500)	32
Fig. 8 上多々良遺跡(第4次)出土遺物実測図(1/3・1/2)	Fig. 36 延岡城内遺跡(第15次)石組造構実測図(1/80)	33
Fig. 9 川辺遺跡調査区配図図(1/2,500)	Fig. 37 延岡城内遺跡(第15次)土壘断面図(1・2トレンチ・1/80)	34
Fig. 10 延岡城内遺跡(第14次)位置図(1/15,000)	Fig. 38 低岡城内遺跡(第15次)出土遺物実測図1(1/3)	36
Fig. 11 延岡城内遺跡(第14次)鈎頭山位置図(1/2,500)	Fig. 39 延岡城内遺跡(第15次)出土遺物実測図2(1/4)	37
Fig. 12 延岡城内遺跡(第14次)十層断面図(1トレンチ・1/80)	Fig. 40 堂ノ上遺跡位置図(1/15,000)	40
Fig. 13 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物実測図1(1/3)	Fig. 41 堂ノ上遺跡調査区配図図(1/2,500)	40
Fig. 14 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物実測図2(1/3)	Fig. 42 堂ノ上遺跡上層断面図(1/80)	40
Fig. 15 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物実測図3(1/3)	Fig. 43 堂ノ上遺跡出土遺物実測図1(1/2, 1/3)	42
Fig. 16 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物実測図4(土壘1・1/3)	Fig. 44 吉野遺跡(第8次)位置図及び周辺遺跡分布図(1/25,000)	43
Fig. 17 郡家原遺跡(第1次)位置図(1/15,000)	Fig. 45 吉野遺跡(第8次)調査区配図(1/2,000)	44
Fig. 18 郡家原遺跡(第1次)調査区配図図(1/600)	Fig. 46 角野遺跡(第8次)集石造構1・2実測図(1/20)	45
Fig. 19 上大瀬町出口地点位置図(1/15,000)	Fig. 47 吉野遺跡(第8次)堆石埋納造構実測図(1/10)	46
Fig. 20 上大瀬町出口地点断面図(1/2,500)	Fig. 48 吉野遺跡(第8次)出土遺物実測図1(2/3)	47
Fig. 21 上大瀬町出口地点上層断面図(1/80)	Fig. 49 古野遺跡(第8次)出土遺物実測図2(2/3)	48
Fig. 22 上大瀬町出口地点出土遺物実測図(1/3)	Fig. 50 吉野遺跡(第8次)出土遺物実測図3(2/3)	49
Fig. 23 幸町第1地点位置図(1/15,000)	Fig. 51 吉野遺跡(第8次)出土遺物実測図4(1/3)	50
Fig. 24 幸町第1地点断面図(1/2,500)	Fig. 52 上崎地区遺跡(第7次-1区)位置図(1/2,500)	54
Fig. 25 幸町第1地点土壘断面図(1/80)	Fig. 53 上崎地区遺跡(第7次-2区)位置図(1/5,000)	55
Fig. 26 愛宕山第1遺跡位置図(1/15,000)	Fig. 54 曽木原遺跡(第4次)位置図(1/2,500)	57
Fig. 27 愛宕山第1遺跡調査区配図図(1/500)	Fig. 55 角田上ノ原地点位置図(1/2,500)	57
Fig. 28 愛宕山第2遺跡土壘断面図(1/80)	Fig. 56 東原遺跡位置図(1/2,500)	59

表目次

第1表 平成18年度市内遺跡発掘調査地一覧表	2	第6表 空ノ上遺跡出土遺物図録表	42
第2表 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物観察表1	15	第7表 吉野遺跡(第8次)出土遺物(石器)観察表	51
第3表 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物観察表2	16	第8表 吉野遺跡(第8次)出土遺物(土器)観察表	51
第4表 上大瀬町川口地点出土遺物観察表	23	第9表 報告書抄録	59
第5表 延岡城内遺跡(第15次)出土遺物観察表	37		

写真目次

PL. 1 上多々良遺跡(第4次) 土壙(A 5地点)	7	PL. 36 鶴来崎町宮田地点 光撮状況(北東から)	31
PL. 2 川辺遺跡 近景(南から)	8	PL. 37 鶴来崎町宮田地点 上層断面(南壁)	31
PL. 3 延岡城内遺跡(第14次) 近景(北から)	9	PL. 38 延岡城内遺跡(第15次) 近景(北東から)	32
PL. 4 延岡城内遺跡(第14次) 土層断面(1トレンチ)	10	PL. 39 延岡城内遺跡(第15次) 石組遺構検出状況1(南西から)	34
PL. 5 延岡城内遺跡(第14次) 遺物出土状況(1トレンチ)	10	PL. 40 延岡城内遺跡(第15次) 石組遺構検出状況2(西から)	35
PL. 6 延岡城内遺跡(第14次) 川上遺物1-1	16	PL. 41 延岡城内遺跡(第15次) 石組遺構検出状況3	35
PL. 7 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物1-2	16	PL. 42 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物1-1	38
PL. 8 延岡城内遺跡(第14次) 山土遺物2	16	PL. 43 延岡城内遺跡(第15次) 川上遺物2-1	38
PL. 9 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物3	16	PL. 44 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物1-2	39
PL. 10 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物4-1	17	PL. 45 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物2-2	39
PL. 11 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物4-2	17	PL. 46 延岡城内遺跡(第15次) 山土遺物3-1	39
PL. 12 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物5-1	18	PL. 47 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物3-2	39
PL. 13 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物5-2	18	PL. 48 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物4-1	39
PL. 14 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物6-1	19	PL. 49 延岡城内遺跡(第15次) 山土遺物4-2	39
PL. 15 延岡城内遺跡(第14次) 川上遺物6-2	19	PL. 50 空ノ上遺跡 調査前(2トレンチ・南東から)	40
PL. 16 街原遺跡(第1次) 近景(西から)	20	PL. 51 空ノ上遺跡 土層断面(1トレンチ・西壁)	41
PL. 17 上大瀬町川口地点 近景(北から)	21	PL. 52 空ノ上遺跡 光撮状況(2トレンチ・東から)	41
PL. 18 上大瀬町川口地点 航空写真(昭和23年・GIR撮影)	22	PL. 53 空ノ上遺跡 土層断面(2トレンチ・南壁)	41
PL. 19 上大瀬町川口地点 土層断面1(東壁)	22	PL. 54 吉野遺跡(第8次) 漢査風景	52
PL. 20 上大瀬町川口地点 土層断面2(東壁)	22	PL. 55 吉野遺跡(第8次) 集石遺構1(2トレンチ)	52
PL. 21 上大瀬町川口地点 出土遺物1	24	PL. 56 吉野遺跡(第8次) 集石遺構2(3トレンチ)	52
PL. 22 上大瀬町川口地点 出土遺物2	24	PL. 57 吉野遺跡(第8次) 麻布器埋納遺構(2トレンチ)	52
PL. 23 幸町第1地点 近景(東から)	25	PL. 58 吉野遺跡(第8次) 山土遺物1	52
PL. 24 幸町第1地点 調査風景1(東から)	26	PL. 59 吉野遺跡(第8次) 出土遺物2	53
PL. 25 幸町第1地点 調査風景2(1トレンチ・東から)	26	PL. 60 吉野遺跡(第8次) 出土遺物3	53
PL. 26 幸町第1地点 土層断面(2トレンチ・東から)	26	PL. 61 上嶺地区遺跡(第7次-1区) A地点調査風景(南から)	54
PL. 27 愛宕山第1遺跡 近景(東から)	27	PL. 62 上嶺地区遺跡(第7次-1区) B地点調査風景(南から)	54
PL. 28 愛宕山第1遺跡 出土遺物1	28	PL. 63 上嶺地区遺跡(第7次-2区) A地点柱穴検出状況	55
PL. 29 愛宕山第1遺跡 調査風景(1トレンチ・東から)	28	PL. 64 上嶺地区遺跡(第7次-2区) B地点遺物出土状況(北東から)	55
PL. 30 愛宕山第1遺跡 完掘状況(1トレンチ)	28	PL. 65 尾木原遺跡(第4次) 近景(北から)	56
PL. 31 愛宕山第1遺跡 土層断面(1トレンチ)	28	PL. 66 黒木原遺跡(第4次) 線状遺構検出状況(北から)	56
PL. 32 愛宕山第1遺跡 岩鉢検出状況(3トレンチ・南から)	28	PL. 67 角田上ノ原地点 近景(南から)	57
PL. 33 鶴来崎町宮田地点 近景(東から)	30	PL. 68 角田上ノ原地点 アカホヤ屋検出状況(南から)	57
PL. 34 鶴来崎町宮田地点 航空写真(昭和23年・GIR撮影)	31	PL. 69 東原遺跡 近景(北から)	58
PL. 35 鶴来崎町宮田地点 調査風景(北東から)	31	PL. 70 東原遺跡 調査状況(北から・黒い部分は現代の掘込み)	58

第1章 はじめに

1. はじめに

宮崎県北部に位置する延岡市は五ヶ瀬川水系の下流部に開けた街で、豊富な水力資源を活用した電気化学工業集積地となっている。中心市街地には近世延岡藩の延岡城跡があり、「千人殺し石垣」に代表される石垣群や城門跡などが残り、城下には、本小路、北町、中町、南町、紺屋町など藩政時代の地名や町割りが残っている。本市では、1990年代後半よりこうした歴史的遺産を活用したまちづくりに取り組んでおり、「内藤家伝来の能面展」、「のべおか天下一薪能」、「城山かぐらまつり」等を開催しながら文化都市「のべおか」の情報発信に努めている。また、立ち遅れていたインフラ整備も着実に進んでおり、「一般国道10号延岡道路」や「一般国道218号北方延岡道路」の部分開通をはじめ、延岡インターから市街地へのアクセス道路でもある本小路通線は歴史的景観に配慮するなど街の様相は変貌を遂げつつある。一方、行政機構でも大きな変革期を迎えており、昨年2月には「市町村の合併の特例に関する法律」いわゆる「合併特例法」に基づき隣接する北浦町・北方町の合併が行われ、本年3月末には北川町とも追加合併するなど、山・川・里・海の伝統文化が融合する新たな局面を迎えている。

本年度における埋蔵文化財保護行政は、民間による大規模開発は減少傾向であったが、不動産鑑定にかかる照会件数が増加している状況にある。ここ数年の民間開発は小規模開発が主体で、携帯電話会社によるアンテナ設置事業によるものが多い。一方、公共事業関連は予算縮減に伴い減少傾向にあるが、北方町上崎地区農地保全事業や岡富古川地区土地区画整理事業等のプロジェクトが進められている。これらの開発事業と埋蔵文化財保護事業との調整資料を得るために、試掘・確認調査等を実施している。

なお、上多々良遺跡(第5次)、延岡城内遺跡(第16次)、行謙町茂須野地点、曾木原遺跡(第3次・第5次)の調査は次年度報告とする。

2. 調査の組織

調査主体	延岡市教育委員会
教 育 長	牧 野 哲 久
教 育 部 長	山 良 公 明
文 化 課 長	渡 遼 博 史
文化課主幹兼文化財係長	九 鬼 勉
副主幹兼文化振興係長	黒 木 育 朗
北 方 教 育 課 長	緒 方 尚 志
庶務担当	文化課文化振興係主任主事
	松 岡 直 子
	北方教育課社会教育係長
	春 田 清 子
調査担当	文化課文化財係主任主事
	山 田 聰
	文化課文化財係主任主事
	尾 方 農 一
	文化課文化財係主任主事
	高 浦 哲
	北方教育課社会教育係主任
	小 野 信 彦

発掘作業員 安藤登美子、壱岐 忠治、甲斐カツキ、甲斐 龍男、甲斐 正子、甲斐三千代、
 甲斐 如高、川名千代子、川野 尚子、酒井 清子、白石 良子、中川イツ子、
 中川 文夫、中島 千賀、林田 裕子、山本 千穂、伊東かずえ、甲斐 共子、
 甲斐美智代、河野 愛子、永田ミチエ、長村 壽子、西口アヤ子、橋本 繼美、
 藤田キヌエ、藤田 律夫、藤本ミサヲ、柳川ヒデ子、柳田つよ子、柳田 久子、
 山口ツヤ子、山本八重子

資料整理 敷石サヨ子、山本敬子、藤本千鳥、森 有美、佐藤きみゑ、甲斐美智代、
 橋本繼美

なお、調査にあたっては地権者の方々をはじめ関係機関及び開発業者などに多くの配慮を賜った。深く感謝する。

番号	自治体名	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査開始日	調査終了日
1	延岡市	上大瀬町出土地点	延岡市上大瀬町 3丁目 14・16	個人住宅建設	6.0	20060412	20060417
2	延岡市	中町第1地点	延岡市幸町 2丁目 125番地外	ビル建設	40.0	20060512	20060525
3	延岡市	古野遺跡(第8次)	延岡市古野町 1586-2・1588-6	施設建設	30.0	20060516	20060619
4	延岡市	愛宕山第1遺跡	延岡市愛宕町 6112番地 52	携帯電話無線基地局建設	34.0	20060530	20060612
5	延岡市	福来崎町宮田地点	延岡市福来崎町 2丁目 2425番地1・2	携帯電話無線基地局建設	5.0	20060613	20060616
6	延岡市	延岡城内遺跡(第15次)	延岡市天神小路 304-9	個人住宅建設	18.6	20060817	20060830
7	延岡市	堂ノ上遺跡	延岡市二瀬町 1219番地	倉庫建設	19.6	20060927	20061013
8	延岡市	上多々良遺跡(第5次)	延岡市阿富・吉川町内	土地区画整理事業	142.5	20070118	20070320
9	延岡市	延岡城内遺跡(第16次)	延岡市本小路 173-22	個人住宅建設	5.0	20070125	20070201
10	延岡市	石鶴町茂須野地点	延岡市行鶴町 650番地	携帯電話無線基地局建設	14.6	20070219	20070302
11	北方町	上崎地区遺跡(第7次・1回)	延岡市北方町上崎辰 1320-1・1322	県営農地整備全般事業	5.0	20060802	20060803
12	北方町	上崎地区遺跡(第7次・2回)	延岡市北方町上崎辰 942-2・1073-38	県営農地整備全般事業	5.0	20060920	20060922
13	北方町	曾木原遺跡(第4次)	延岡市北方町曾木子 1-2・1-3・1-丙	個人農地改良	16.0	20060804	20060808
14	北方町	角田ノ原地点	延岡市北方町角田社 594-1	個人住宅建設	16.0	20060830	20060831
15	北方町	東原遺跡	延岡市北方町川水流卯 965-14	個人住宅建設	18.0	20061113	20061115
16	北方町	曾木原遺跡(第5次)	延岡市北方町曾木子 1-2・1-3・1-丙	個人農地改良	500.0	20070109	20070330

第1表 平成18年度市内遺跡発掘調査地一覧表



1. 上大瀬町出口地点 2. 幸町第1地点 3. 吉野遺跡(第8次) 4. 愛宕山第1遺跡 5. 稲葉崎町宮田地点
 6. 延岡城内遺跡(第15次) 7. 堂ノ上遺跡 8. 上多々良遺跡(第5次) 9. 延岡城内遺跡(第16次)
 10. 行勝町茂須野地点

Fig. 2 平成 18 年度市内遺跡発掘調査地分布図(旧延岡市・1/80,000)



1. 上崎地区遺跡第7次-1区 2. 上崎地区遺跡第7区-2区 3. 東原遺跡 4. 角田上ノ原遺跡 5. 曽木原遺跡

Fig. 3 平成18年度市内遺跡発掘調査地分布図(旧北方町・1/50,000)

第2章 調査の記録

1. 上多々良遺跡（第4次）

所在地 延岡市岡富町・古川町
調査原因 土地区画整理事業
調査期間 20060208～20060304

調査面積 83.0 m²
担当者 尾方
処置工事実施

(1) 位置と環境(Fig. 4)

調査地周辺は岡富・古川地区区画整理事業に伴い、埋蔵文化財の試掘・確認調査、本調査が行われている。市の北部に位置する高平山から、南の五ヶ瀬川に向かって派生する舌状丘陵と、その丘陵に囲まれた平野部に広がる遺跡群である。区画整理予定地内中央に位置する舌状丘陵は、古くから箱式石棺が露出しており、埋蔵文化財包蔵地として認識されていた（上多々良箱式石棺群）。この岡富・古川地区は、五ヶ瀬川の氾濫に悩まされてきた土地である。

周辺地の調査は、上多々良箱式石棺群の東に位置する舌状丘陵とその間の水田地帯を、平成9(1998)年に上多々良遺跡第1次調査として始まった。円墳1基の所在確認と水田から中世の土師器の坏が出土している。平成10年の上多々良箱式石棺群第1次調査では箱式石棺3基を検出している。平成15年に上多々良箱式石棺群第2次を行っている。平成16年には上多々良箱式石棺群西側の水田の一部を調査(上多々良遺跡第2次)を行っている。平成17年～平成18年には上多々良遺跡第3次調査として丘陵上の調査を行い、3基の円墳、箱式石棺2基、中世の骨蔵器等が確認されている。

今回の調査は、第3次調査の北側、同一丘陵の上位(A地区)と第2次調査の水田地帯の一部(B地区)の調査を行った。



Fig. 4 上多久自遺跡(第4次)位置圖 (1/15,000)

(2) 調査の概要 (Fig. 5 / Fig. 6)

A地区は丘陵上の調査区で、同一丘陵上より円墳3基等が(上多々良第3次調査)が検出されているため、丘陵の頂部を重点的に調査を行うこととした。踏査を行い、調査地点を5箇所に設定し丘陵の下方からA 1～A 5地点とした。全ての地点で丘陵の最頂部を含めたトレンチを十字状に設定した。A 1～A 4地点は表土下約20cmで地山である岩盤が検出された。遺物等も出土せず、埋蔵文化財の可能性は極めて低いと判断した。A 5地点は頂部付近に掘り込みを確認した。トレンチを広げ、土壤1基を確認した。土壤の内部から陶磁器片、鉄釘等が出土した。

B地区は上多々良箱式石棺群西側の水田地帯である。この地区は現水田耕作地であるため、休耕等の条件が合った場所から調査している。第4次調査では2箇所(B 1・B 2地点)の調査を行った。B 2地点は水田地の中央西端にある。トレンチを掘削するも湧水がひどく、壁面の崩落等も見えることから土層の観察のみで調査を終了した。B 1地点は水田地の中央南端にある。用水路の隣接地である。表土下約60cmの間に4回の暗橙色鉄分の沈殿が見られる。水田耕作の際の基盤層と思われ、1～3回目の基盤層は薄く、軟らかい。第8層にあたる4回目の基盤層は非常に硬くしまっている。この第8層までが現代～現在までの水田耕作層と考えられる。第8層以下の層は、層厚15～20cmの層が連続する。やや砂質帶びた粘質土層であった。第15層まで数え、地表下約1.6mで湧水が始まった。土層観察の結果及び自然科学分析(プランクトオパール分析)の結果から、旧水田の痕跡は発見されなかった。

(3) 検出遺構 (Fig. 7 / PL. 1)

A 5地点より土壤1基を検出している。土壤は梢円形状の平面形をなし、長軸358cm、短軸252cm、深さは約20cmであった。さらに中央部付近に直径約100cm、深さ約30cmの掘り込みを有している。陶磁器片、鉄釘等が出土している。土壤内の埋土は以下のとおりである。1は腐葉土、2は淡暗黃褐色土(アカホヤが混じる)、3は暗褐色土(細粒)、4は淡褐色土(細粒)、5は地山である岩盤の風化層である。



Fig. 5 上多々良遺跡(第4次)
A地区調査区配図(1/2,000)

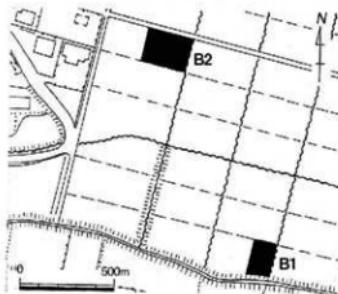


Fig. 6 上多々良遺跡(第4次)
B地区調査区配図(1/2,500)

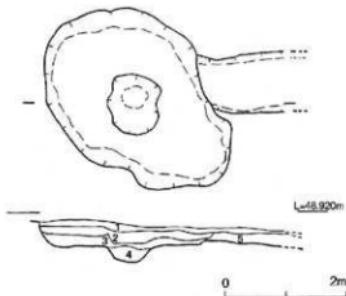


Fig. 7 上多々良遺跡(第4次) 土壌実測図
(A 5地点・1/80)

(4) 出土遺物 (Fig. 8)

A 5地点から陶器・鉄釘等が出土している。1は染付の土瓶で、検出した土壌の中に広く散らばっていた。復元口径 10.4cm、胴部最大径 19.7cm である。そろばん玉形の体部で、口縁部は短く立ち上がる。外面とも施釉されているが、内面は口縁部、外面は下 1/4 は施釉されていない。2~5 は金属製品である。2・3 は鉄釘と思われ、4・5 は不明である。

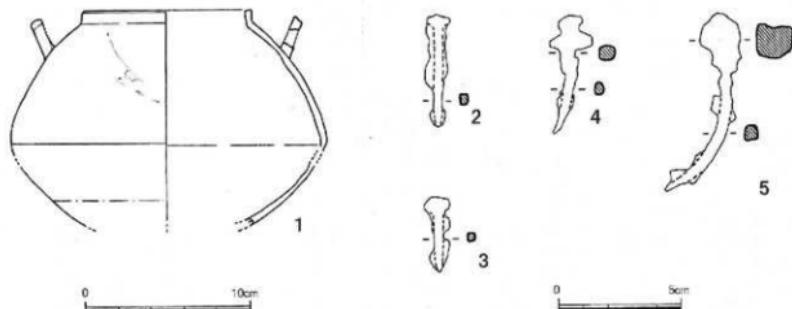
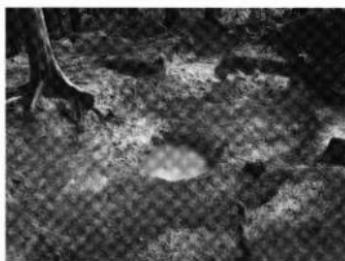


Fig. 8 上多々良遺跡(第4次) 出土遺物実測図(1/3・1/2)

(5) まとめ

A地区の調査は、上多々良箱式石棺群及び上多々良遺跡第3次調査等で確認されている箱式石棺や円墳の広がりを確認することが調査の一つの目的であった。丘陵上に古墳の痕跡を確認することはできなかった。A 5地点から土壌を 1 基確認したが、19世紀代のものと考えられる。地元では、江戸時代に付近で刃傷沙汰があり、その時に亡くなった人の首を山の上に埋めたとの言い伝えがある。この土壌がその地点にあたるかは確認できないが、興味の湧く話である。B地区の調査では古代の水田跡の検出に主眼を置いていたが、特筆すべき遺構・遺物は検出されていない。

今後、A地区は更に東に派生する舌状丘陵があり、調査が必要である。B地区も更に調査箇所を増やしていく必要がある



PL. 1 上多々良遺跡(第4次) 土壌(A 5地点)

2. 川辺遺跡

所在地 延岡市大貫町6丁目143-1外2筆
調査原因 水源地ポンプ場改築
調査期間 20060317～20060331

調査面積 151.0 m²
担当者 尾方
処置 工事実施

(1) 位置と環境 (Fig. 9)

調査地は市内中心部を流れる五ヶ瀬川と大瀬川に挟まれた中洲に位置する。その分流点より約1.5km大瀬川の左岸である。川までは約120mである。ここに市の水源地である、西階水源地が所在する。今回の調査は、この水源地の改築に伴い実施したものである。

当地周辺は、古代律令制のもと設置された駅、川辺駅(かわのべえき)の所在が想定されている。現段階で位置の確定はできていない。また、周辺の低丘陵地には国指定南方古墳群の大貫支群が点在している。大貫支群は前方後円墳1基、円墳9基、横穴1基で構成される支群である。

(2) 調査の概要 (Fig. 10 / PL. 2)

調査はトレンチ法を用い、3箇所を設定した。調査地の土層は以下の通りである。第1層耕作土(現在の畑作)暗褐色砂質土、第2層淡暗黃褐色砂質土。第3層黃褐色砂質土(粘質土が混じる)。川の近くという立地であり、全体に砂が覆っていた。安全面を考慮し、調査での掘削深は約160cmである。

特筆すべき遺構は検出されていない。遺物は土器の小片等が出上している。摩耗がひどく、調整は不明で、2～5cm大の小片であることから、器形の推定も難しい。

(3) まとめ

今回の調査では、古代駅跡を伺わせる遺構・遺物等は検出されていない。

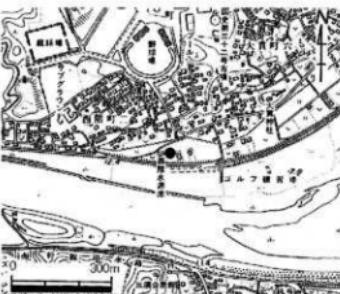


Fig. 9 川辺遺跡 位置図 (1/15,000)

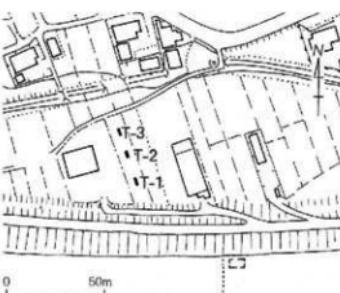


Fig. 10 川辺遺跡 調査区配置図 (1/2,500)



PL. 2 川辺遺跡 近景(南から)

3. 延岡城内遺跡(第14次)

所在地 延岡市天神小路 299-10 外

調査原因 個人住宅建設

調査期間 20060214 ~ 20060222

調査面積 21.0 m²

担当者 山田

処置 慎重工事

(1) 位置と環境

延岡市中心部を流れる五ヶ瀬川と大瀬川に挟まれた川中地区は、城山(53.4m)を中心として、近世延岡藩の政治、経済の中枢部であった延岡城が立地し、現在も本市の行政・経済活動の拠点となっている。

延岡城は、慶長6～8年(1601～1603)にかけて初代延岡藩主高橋元種によって築かれた平山城で、県内最大の近世城郭として位置づけられている。城は河川を天然の要害とし、丘陵裾には水堀を巡らし、城の東側にある城下町との境界には土居や水堀を配置していた。また、丘陵部には石垣群が築かれ、本丸、二ノ丸、三ノ丸から成る本城(城山公園)と西ノ丸(内藤記念館・亀井神社)の二郭で構成され、櫓、門などが造られた。城郭の北面は大手口となっており、防衛機能強化のため内堀が二重に築き、堀間に泉橋と宝橋の木橋が二重に造られ、有事の際は敵の進入を遮断する構造になつており防衛機能強化が図られていた。石垣の石材は、行縢山から産出される花崗斑岩、愛宕山産の砂岩(北谷川に石切場跡残存)の自然石や粗削石をはじめ、五ヶ瀬川流域で多く産出される阿蘇溶結凝灰岩の切削石を使用しており、高さ約22m、総延長約70mに及ぶ石垣「千人殺し」を代表とする石垣などが残存している。一方、城下町においては、明治15年の大火や戦災によって当時の街並み景観は消滅しており、道路配置や町名などが当時の面影を留めている程度である。また、西ノ丸にあつた旧藩主内藤家御殿(明治23年再建)や武家屋敷群もその多くが戦災などによって消滅しており、現在は比較的大きな屋敷割りが往時の状況を伝えている。

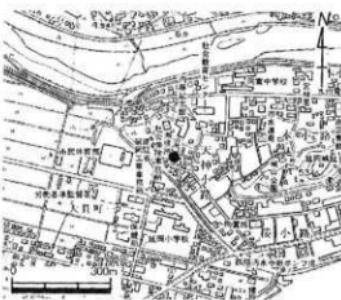


Fig. 11 延岡城内遺跡(第14次) 位置図 (1/15,000)

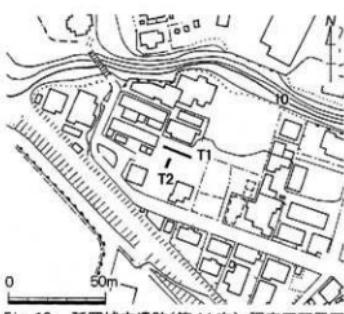


Fig. 12 延岡城内遺跡(第14次) 調査区配置図 (1/2,500)



PL. 3 延岡城内遺跡(第14次) 近景(北から)

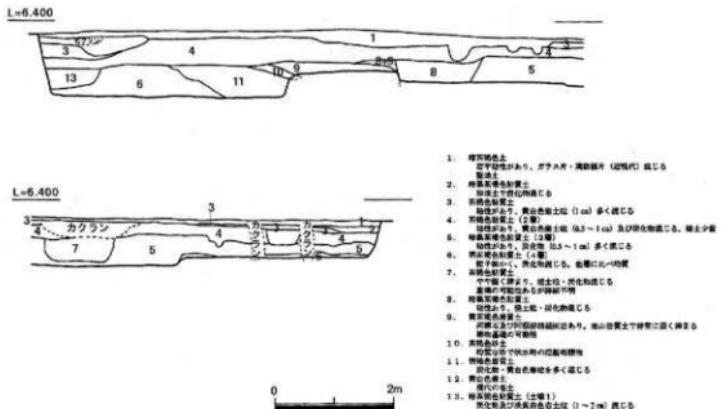


Fig. 13 延岡城内遺跡(第14次) 土層断面図(1トレンチ・1/80)

(2) 調査の概要

調査地は、延岡城西之丸のすぐ南側に隣接する平坦地で、武家屋敷地の一角にあたる。付近は戦災で被災した地域にあたり、戦後に建設された木造家屋が撤去・整地されていた。調査は、予定地内の東西と南北方向にトレンチを設定して実施した。第1トレンチは、旧建物解体等に伴い西側を中心として地表下約40~60cmまで攪乱を受けており、近現代の遺物が混在して出土した。その直下(3層)は概ね18世紀以降の陶磁器類が出土しており、西側壁面上土層観察において土壤1を確認したほか、西から東方向に傾斜する層序が観察されたことから、溝状遺構等の可能性も思料される。第2トレンチは、1トレンチ同様の層序を確認したが、2層と3層の境界で明瞭な焼土層を検出したことから、2層の遺物混入状況から推察して境界面は戦災時の被災面であると思料される結果となつた。最下層は明茶褐色粘質土を確認したが、遺構・遺物等はみられなかつた。



PL. 4 延岡城内遺跡(第14次)
土層断面(1トレンチ)



PL. 5 延岡城内遺跡(第14次) 遺物出土状況
(1トレンチ)

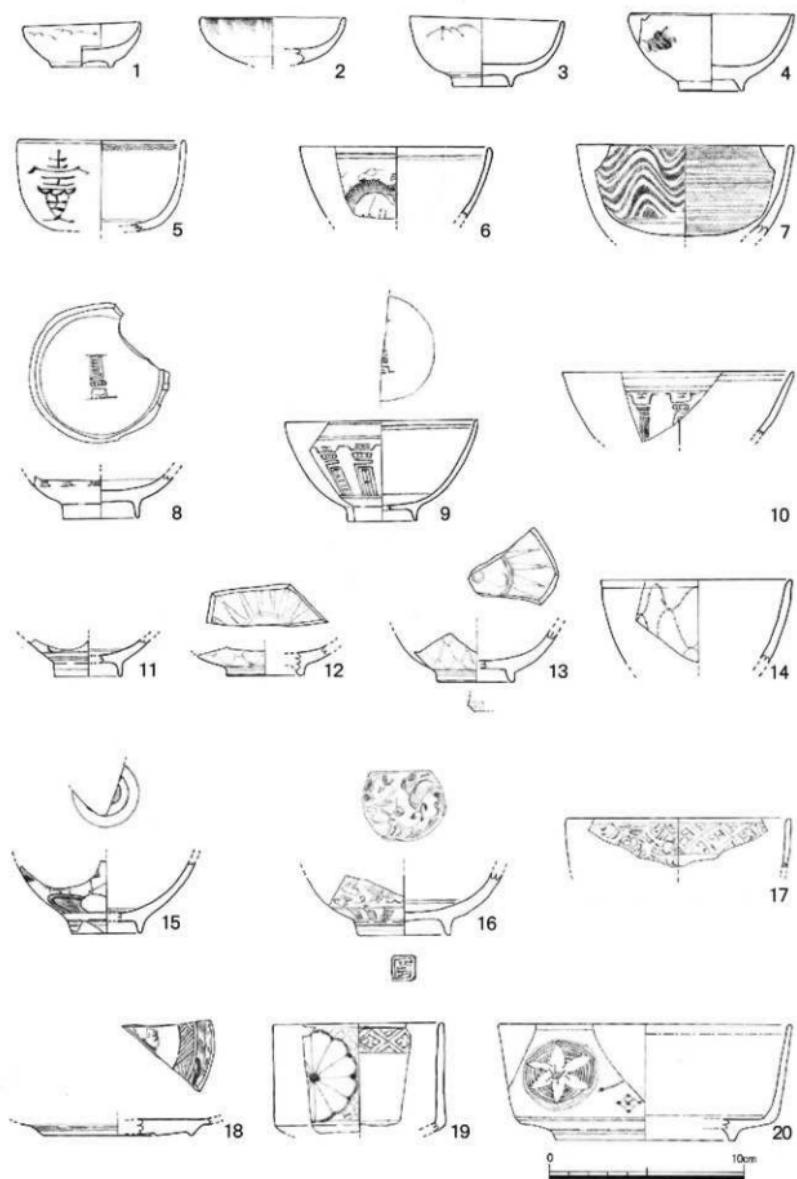


Fig. 14 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物実測図1(1/3)

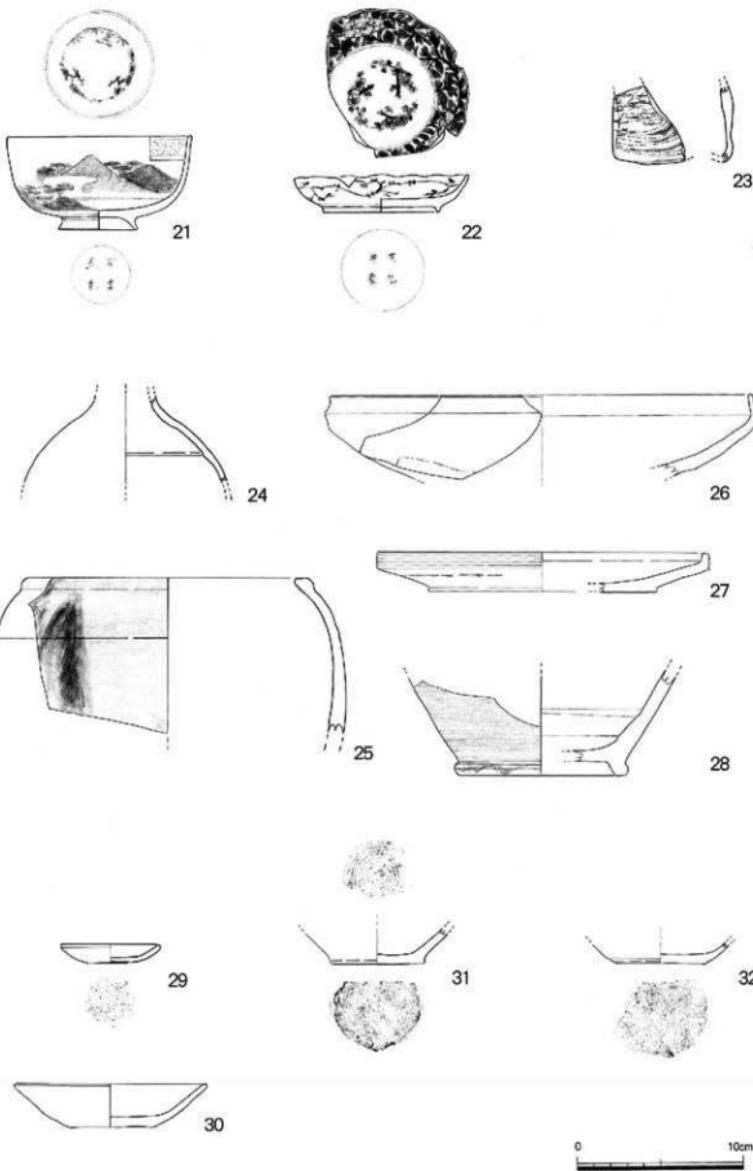


Fig. 15 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物実測図2(1/3)

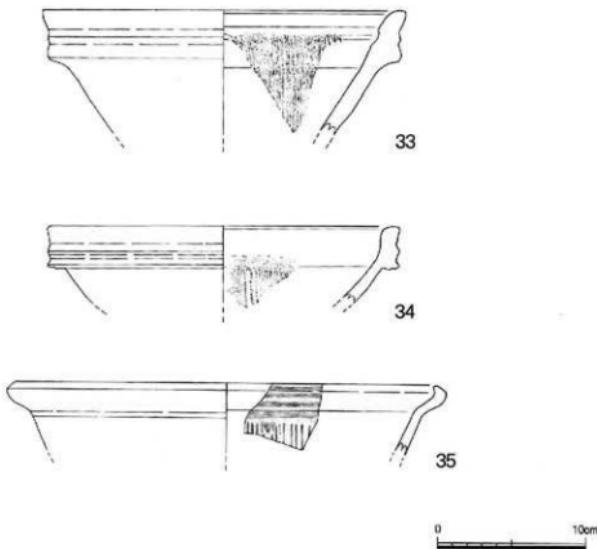


Fig. 16 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物実測図3(1/3)

(3) 検出遺構

第1トレーナーより、土層断面観察から土壤1を検出した。

(4) 出土遺物

各々のトレーナーより戦災面とみられる2層(擾乱層)から3層にかけて陶磁器を中心に出土した。各遺物の詳細については、別表に記載しておく。

(5)まとめ

今回の確認調査では、近現代の擾乱が多く見受けられたが、近世の陶磁器類をはじめ土壌の一部を確認するなど一定の成果が得られた。一方、高橋元種の築城期の絵図史料に描かれている西ノ丸南側の堀跡の存在可否についても明確な判断材料は得られなかった。引き続き今後も予想される周辺開発に留意する必要があろう。

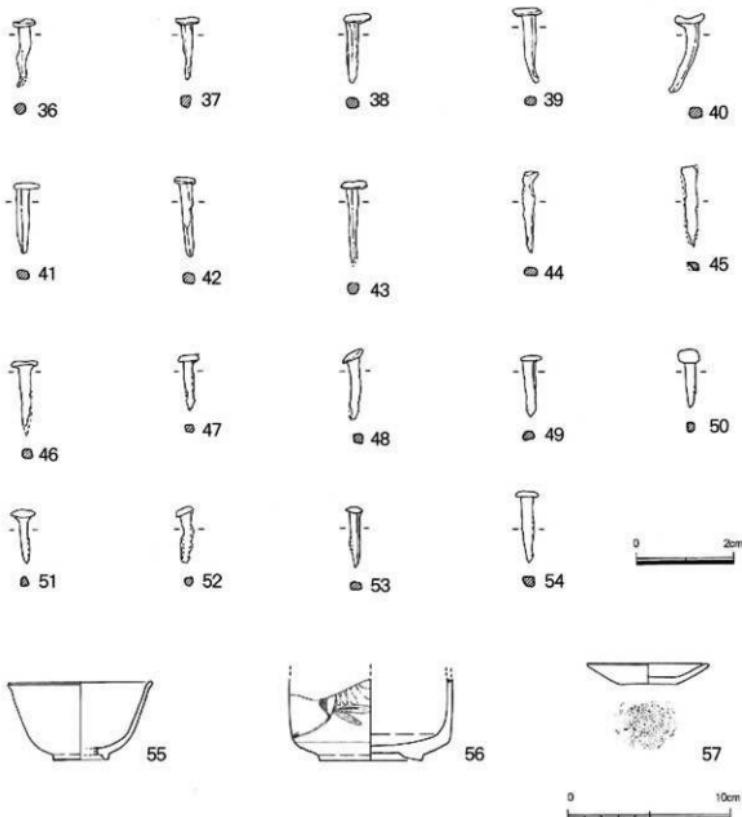


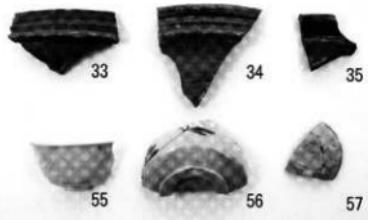
Fig. 17 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物実測図4(土壤1・1/3)

遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	形・量			形態及び文様	備考
					口径	底径	高さ		
1	陶器	小杯	2トレンチ	2層	6.0	2.9	2.1	外面鉢文	肥前 18c
2	磁器	染付小鉢	1トレンチ	3層	7.5			焼成不良	肥前 18c
3	磁器	染付小瓶	2トレンチ	2層	7.8	3.0	3.5	外沿鉢文 底部二重巻線 染付け跡目模み痕	肥前
4	磁器	染付小瓶	2トレンチ	2層	8.5	3.2	4.0	焼成不良 内面白色絵付着	肥前
5	磁器	染付小瓶	1トレンチ	3層	8.6			見込み二重巻線 外面変形字文・蝶文	肥前 18c 後半～19c 前半
6	磁器	染付碗	1トレンチ	2～3層	9.7			外面能文	肥前 17～18c
7	磁器	染付碗	1トレンチ	3層		3.8		外面・内面見込み変形字文	肥前 19c 前半
8	磁器	染付碗	1トレンチ	3層	9.5	3.5	5.2	外面・内面見込み変形字文	肥前 19c 前半
9	磁器	染付碗	1トレンチ	2～3層	12.0			外面変形字文	肥前 19c 前半
10	陶器	碗	1トレンチ	3層	11.2			内外副刷毛目模様	肥前
11	磁器	染付碗	表探			3.4		底部 二重巻線	肥前
12	磁器	染付碗	1トレンチ	3層		4.0		内外面二重巻目文	肥前 18c
13	磁器	染付碗	1トレンチ	土壌1		4.0		内外面二重巻目文 高台内面「福喜」	肥前 18c
14	磁器	染付碗	表探		9.7			外重巻目文	肥前系 17～18c
15	磁器	染付碗	1トレンチ	3層		3.6		見込み二重巻線	肥前系
16	磁器	染付碗	表探			4.8		見込み二方配文・二重巻線 外面唐草文・高台内面「喜」銘款	肥前 18c
17	磁器	鉢	1トレンチ	3層	11.6			内面口縁部四方博文 外面唐草文	肥前 18～19c
18	磁器	染付皿	1トレンチ	2～3層		7.6		見込み松竹梅文・蛇ノ目輪折高台	肥前 17～18c
19	磁器	窓口	1トレンチ	一括	8.7			内面口縁部四方博文 外面水波菊花文	肥前 17c 宋～18c 前半
20	磁器	染付蓋付鉢	1トレンチ	3層		4.4	6.0	口感染釉有り 外面花文	肥前系
21	磁器	染付碗	1トレンチ	3層	10.2	4.6	5.6	内面江戸文 見込み環状松竹梅文・二重巻線 高台内面模様「富貴長寿」銘	肥前 18c 後半
22	磁器	染付輪花皿	2トレンチ	一括	10.5	6.8	2.3	外面部唐草文 見込み松竹梅文・高台内面「成化年製」銘款	肥前 18c
23	磁器	色繪人形	1トレンチ	2～3層				煙	肥前系
24	陶器	瓶	表探					外面鉢輪	肥前系 19c
25	磁器	火鉢	表探		16.9			外面口入あり	漸・美濃 19c
26	陶器	鉢	1トレンチ	3層	25.5			外面底部露胎	
27	陶器	皿	1トレンチ	3層	21.0	13.8	2.3	内外面褐色釉 外面口縁部四重丸線 内外裏に焼成時の模み重ね痕あり	
28	陶器	水指	1トレンチ	3層		10.2		白土刷毛目	肥前
29	土師器	小皿	2トレンチ	一括	6.0	2.5	1.1	内面褐色釉 糸切り底	19c
30	土師器	灯明皿	1トレンチ	3層	11.6	6.0	2.6	口縁部墨付有り 表面摩滅	
31	土師器	小皿	1トレンチ	3層		5.4		糸切り底	
32	土師器	小皿	1トレンチ	3層		5.4		糸切り底	
33	陶器	瓶鉢	1トレンチ	3層					明石
34	陶器	楕鉢	1トレンチ	3層	24.4				
35	陶器	鉢	表探		29.2			内面白土刷毛目	肥前
36	金属製品	鍔釘	1トレンチ	土壌1	1.4	0.5	0.2		
37	金属製品	鍔釘	1トレンチ	土壌1	1.2	0.5	0.2		
38	金属製品	鍔釘	1トレンチ	土壌1	1.4	0.5	0.3		
39	金属製品	鍔釘	1トレンチ	土壌1	1.6	0.6	0.2		

第2表 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物観察表1

出土番号	種別	器種	出土地点	層位	測量基準 口徑・底径・壁厚・深			形態及び文様	備考
					口徑	底径	壁厚		
40	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.6	0.5	0.2		
41	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.4	0.5	0.2		
42	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.6	0.5	0.2		
43	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.6	0.5	0.3		
44	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.7	0.3	0.2		
45	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.7	0.3	0.2		
46	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.3	0.6	0.2		
47	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.1	0.4	0.2		
48	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.4	0.4	0.2		
49	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.3	0.4	0.2		
50	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.2	0.4	0.2		
51	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.1	0.5	0.2		
52	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.2	0.4	0.2		
53	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.3	0.4	0.2		
54	金属製品	鉄釘	1トレンチ	1層	1.5	1.5	0.2		
55	磁器	小瓶	1トレンチ	1層	8.8	3.4	4.7	端反転 診入あり	吉城窯 19c
56	磁器	瓶	1トレンチ	1層		6.2		外腹草花 底部露胎	間西系
57	土師器	小瓶	1トレンチ	1層	7.3	3.6	1.2	内面褐色釉	19c

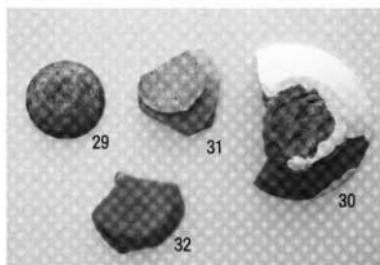
第3表 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物観察表2



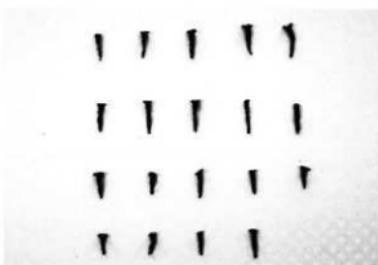
PL. 6 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物 1 - 1



PL. 7 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物 1 - 2



PL. 8 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物 2



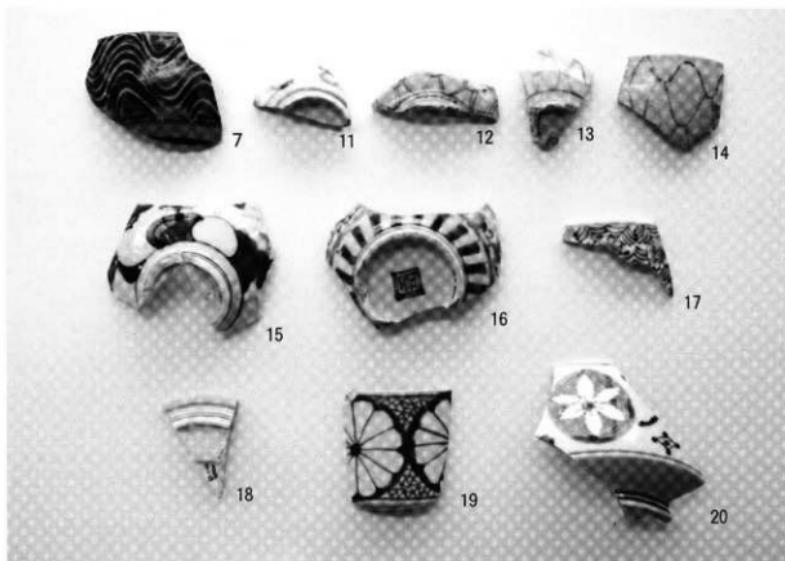
PL. 9 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物 3



PL. 10 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物4-1



PL. 11 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物5-2



PL. 12 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物5-1



PL. 13 延岡城内遺跡(第14次)出土遺物5-2



PL. 14 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物 6-1



PL. 15 延岡城内遺跡(第14次) 出土遺物 6-2

4. 御堂原遺跡(第1次)

所在地 延岡市岡元町 627-2
調査原因 携帯電話無線基地局建設
調査期間 20060306 ~ 20060316

調査面積 11.4 m²
担当者 尾方
処置 本調査

(1) 位置と環境(Fig. 18)

調査地は市の西部の岡元町に所在する。岡元町周辺の五ヶ瀬川左岸台地は、古くから旧石器や土器片等が採集され、遺跡の宝庫として知られている。今回の調査地もこの台地上に所在し、標高約41mの南縁部に位置する。



Fig. 18 御堂原遺跡(第1次) 位置図
(1/15,000)

(2) 調査の概要(Fig. 19 / PL. 16)

携帯電話無線基地局建設に伴う調査であるため、調査対象面積も約300 m²と狭く、予定地の中心付近に調査区を設定した。

土層の堆積状況は以下のとおりである。第1層黒色土(耕作土)、第2層アカホヤ火山灰層。第3層黒色土層。第4層褐色ローム漸移層、第5層褐色ローム層。第6層黄褐色ローム漸移層。第7層黄褐色ローム層。第8層河岸段丘レキ層。第9層暗赤褐色岩盤層。

第2層のアカホヤ(以下Ah)は台地の低位方向のみの堆積で、上位の黒色土とともに擾乱を受けていた。第3層は縄文早期の遺物包含層にあたる。出土遺物は無いが、焼レキを検出している。第4層～第6層で旧石器が出上っている。第7層以下は地山と判断される堆積である。阿蘇第4火碎部(Aso4／約8万年前)以降の台地の形成状況を伺い知る事の出来る層序である。第8層のレキ層は台地高位方向のみの堆積であった。

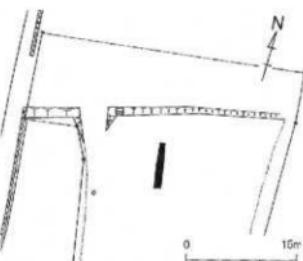


Fig. 19 御堂原遺跡(第1次) 調査区配置図
(1/600)

(3) まとめ

第3層で焼レキが出土しており、また、攪乱穴の中から姫島産黒曜石の剥片が出土している。周辺に集石遺構等を含む縄文早期の遺跡の所在する可能性が高いと判断される。第4層～第6層にかけて接合資料を含む石核が含まれる旧石器が10点ほど出土している。石器製作に係わる遺構・遺物の出土が多いと判断した。以上のことから開発業者と協議を行い、本調査を行うこととなった。



PL. 16 御堂原遺跡(第1次) 近景(西から)

5. 上大瀬町出口地点

所在地 延岡市上大瀬町 3-14・3-16

調査面積 6.0 m²

調査原因 個人住宅建設

担当者 山田

調査期間 20060412～20060417

処置工事着手

(1) 位置と環境

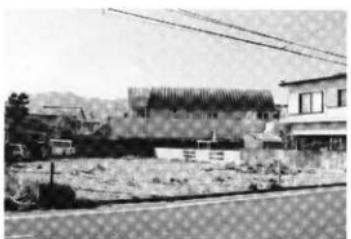
上大瀬町は、延岡市中心部を東流する大瀬川南岸の沖積平野上一角に位置し、南には愛宕山(251.2m)が立地する。周辺地域では、これまでに本格的な発掘調査等が実施されていないため詳細は不明であるが、弥生時代後期の突帯文を多数有する壺形土器(恒富町)や瀬戸内系の影響を示す三角透し穴を有する高坏(三須町)など他地域との交流を示す資料が得られており、弥生時代～古墳時代を中心とした遺跡群の存在が推定されている。また、古城町には中世土持氏の井上堀跡があり、天守山(68.4m)と呼ばれる籠城跡には曲輪群が残存し、谷を挟んで東側には居館があった高台(創価学会会館付近)が残っている。当時、土持氏は西の三田井氏(西白杵郡高千穂町)及び南の伊東氏(東白杵郡門川町)との対立関係にあり、旧街道筋の東側高台に位置する本城は、同氏の戦略上拠点的存在であったことが窺える。この他、居館跡の高台斜面上には古城貝塚(縄文時代?)や日常雑器を生産していた古城窯跡(近世)存在し、平野部には延岡地域における能楽の黎明期の舞台ともなった憩泉寺跡(田中薬師寺跡・中世)と呼ばれる伝承地が残っている。大瀬川南岸域には新小路といった武家屋敷地が存在していたが、昭和10年の安賀多橋架け替えに伴う区画整理事業や、建設省直轄河川五ヶ瀬川改修事業(S26～S36)により大瀬川南岸も拡幅(約56m)され、出口町や上大瀬町・春日町などの一部が消滅するなどしておらず、区画割の大きな屋敷地が残る程度で藩政時代の面影は殆ど見受けられない。



Fig. 20 上大瀬町出口地点 位置図(1/15,000)



Fig. 21 上大瀬町出口地点調査区 配置図(1/2,500)



PL. 17 上大瀬町出口地点 近景(北から)

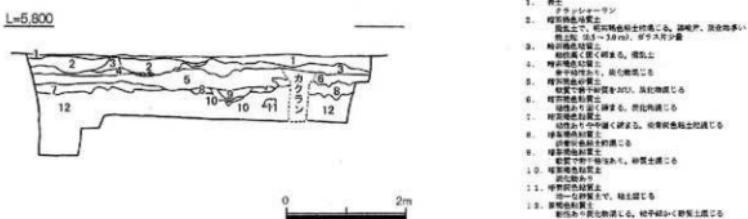


Fig. 22 上大瀬町出口地点 土層断面図(1/80)

(2) 調査の概要

調査地は、市道上に面した宅地で、旧建物は既に撤去されており更地となっていた。そこで、対象地内に1カ所のトレンチを設定しクラッシャーラン除去後に実施した。

調査の結果、層序は概ね粘質土を中心とした1～12層の土層が確認され、最深部で約1.6mほど掘り下げたが河原石や砂層といった大瀬川の洪水堆積層や湧水面は検出されなかった。現地表下約0.2mを中心とした2層から遺物を少量検出した。5層以深は、8層との境界付近に遺構面とも思われる層の乱れが見受けられたが、硬化面や遺構・遺物を検出していなかったため、今回の調査では判断を見送り、今後の周辺調査に委ねることとした。また、近世～近代遺物を検出した2層からはガラス片、漆喰片と共に焼土粒も検出していることから、戦災の影響とも推定されるが、延岡市の罹災状況図には被災地域の西側境界の新小路通線(桜並木)より西側の隣接地となっていることから、当時の被災地域が記録図面以上に広がっていた可能性を示すものとして注目される。

(3) 検出遺構

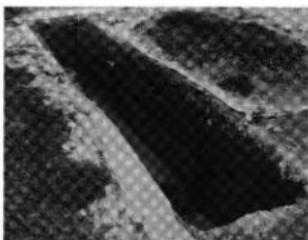
なし

(4) 出土遺物

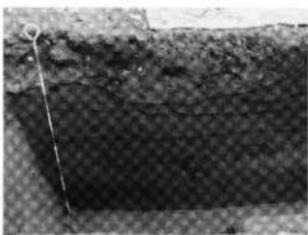
2層より一括資料として出土した。1は、肥前系青磁碗で、外面に籠形文様がある。2は、磁器の染付小瓶である。外面には瑠璃釉が施され、庵川焼(東臼杵郡門川町)の可能性がある。3は、肥前系磁器の染付碗で、内外面に線描模様がみられる。4は肥前青磁で、見込み及び高台内面は無釉となっている。5は磁器の染付



PL. 18 上大瀬町出口地点
航空写真(昭和23年・GHO撮影)



PL. 19 上大瀬町出口地点 土層断面1(東壁)



PL. 20 上大瀬町出口地点 土層断面2(東壁)

皿で、内外面に縁軸が施される。6は土製玩具の燈籠である。火袋は六面あり、上下方向と宝珠部に紐穴が作られている。7は土鉢片である。8は土製玩具の土玉である。9は土製玩具の面打である。10～14は鉄製釘である。

(5)まとめ

今回の試掘調査では、近世武家屋敷に関する遺構は検出されなかったが、土製玩具を中心とした遺物が出土し、城下の風俗・生活の一端が窺える資料が得られた。また、不明であった堆積状況も判明し、周辺開発に対する基礎データが得られたともいえる。引き続き開発事業に対する調整等が必要になろう。

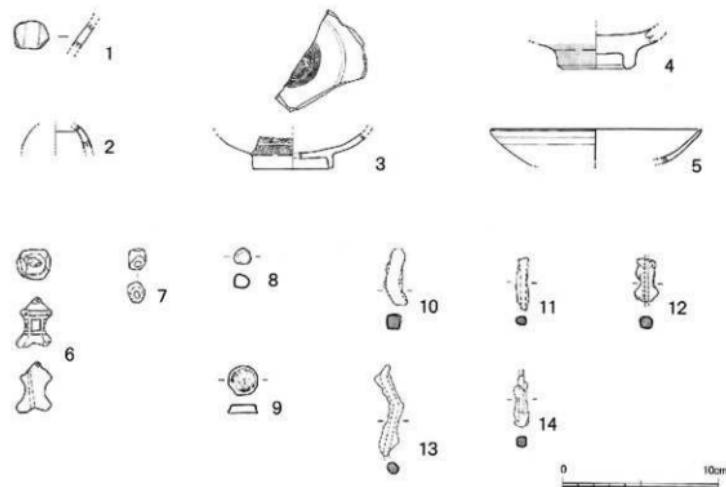
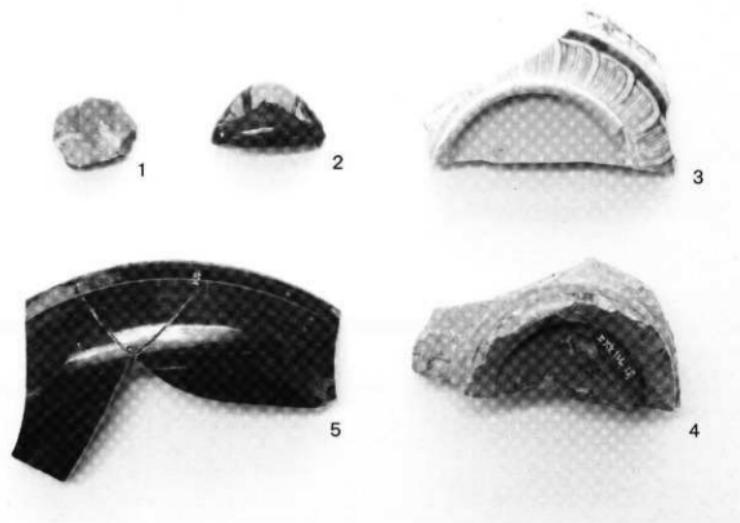


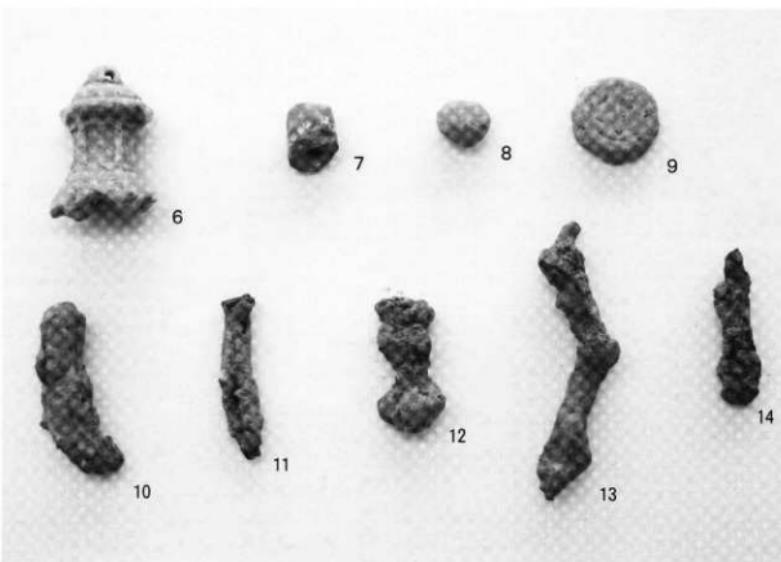
Fig. 23 上大瀬町出口地点 出土遺物実測図(1/3)

遺物 番号	種別	器種	出土地点	層位	法 蓋			形態及び文様	備考
					口径	裏底径	縦壁高		
1	磁器	青磁碗	1トレンチ	2層				外面施釉による陰刻模様	肥前系
2	磁器	染付小瓶	1トレンチ	カタラン				模様繪	庵川焼 19C
3	磁器	碗	1トレンチ	2層		0.5		施青花模様、臺付け脚削ぎ、高台外腹青花繪	肥前・19C
4	磁器	青磁瓶	1トレンチ	2層		0.5		見込み、高台内腹無釉、内外腹貯入	
5	磁器	染付皿	1トレンチ	2層	13.8			内外面綠釉	肥前系
6	土製品	灯籠	1トレンチ	2層	3.2	2.3	1.3	六角灯籠、管部及び主軸に紐穴あり	18～19C
7	土製品	土鉢	1トレンチ	2層	1.1	1.1	1.4	欠損品	18～19C
8	土製品	土玉	1トレンチ	2層	1.0	1.0	0.9	玩具、淡赤黃褐色	18～19C
9	土製品	面打	1トレンチ	2層	1.9	1.9	0.5	玩具、上面模様、淡赤黃褐色	18～19C
10	鉄製品	鉄釘	1トレンチ	2層				欠損品	18～19C
11	鉄製品	鉄釘	1トレンチ	2層				欠損品	18～19C
12	鉄製品	鉄釘	1トレンチ	2層		1.3	0.8	欠損品	18～19C
13	鉄製品	鉄釘	1トレンチ	2層				欠損品	18～19C
14	鉄製品	鉄釘	1トレンチ	2層				欠損品	18～19C

第4表 上大瀬町出口地点 出土遺物観察表



PL. 21 上大瀬町出口地点 出土遺物 1



PL. 22 上大瀬町出口地点 出土遺物 2

6. 幸町第1地点(旧アヅマヤ跡)

所在地 延岡市幸町2丁目125番地外
調査原因 商業ビル建設
調査期間 2006.05.12～2006.05.25

調査面積 40.0 m²
担当者 山田
処置 工事着手

(1) 位置と環境

延岡市の中心市街地に位置する幸町は、祝子川と五ヶ瀬川に挟まれた今山丘陵の東端部裾の平野部に位置する。北東約200mにはJR延岡駅があり、昭和60年代前半まで本市の中心的な商業地として栄えていたが、郊外型店舗や県外資本による大型店舗の進出などにより同地域は衰退し、当該地にあった市内唯一の百貨店も数年前に廃業している。

その後、中心市街地活性化構想などに基づく商業テナントビル建設が具体化したため、主管課の商業観光課と埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行いうに至った。予定地周辺は昭和時代後半の上下水道工事や都市開発の際に弥生土器片等が断片的に検出されていたことから、予定地にも埋蔵文化財の所在の可能性も考えられた。このため、事前の試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無について状況把握することとした。

(2) 調査の概要

調査は、予定地が駐車場として利用中であるため、極力影響が出ないように配慮しながら、重機等を活用したトレンチ法により2カ所設定し実施した。

調査の結果、アスファルト路面及び路盤層の下部は、地表下170～260cmまで旧建物基礎撤去時の攪乱層を検出したが、下層は良好な自然堆積層が確認され、明青灰茶褐色粘土及び、明青灰色砂土(祝子川堆積砂層)が見受けられ、湧水を確認した。攪乱層下部に、上層の暗茶褐色粘質土(延岡城跡周辺における遺物包含層)ブロックが混入していることから、遺物包含層の可能性がある地層は、旧建物基礎によって疎平されていると考えるのが適当とみられる。

なお、予定地西側にトレンチ設定していたが、



Fig. 24 幸町第1地点 位置図 (1/15,000)

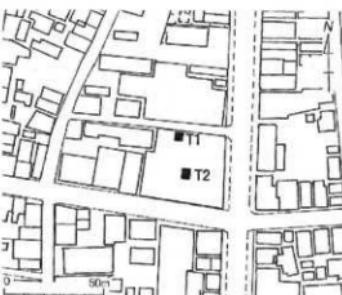


Fig. 25 幸町第1地点 調査区配図 (1/2,500)



PL. 23 幸町第1地点 近景(東から)

重機掘削の震動による隣接建物への被害が懸念された

(3) 検出遺構

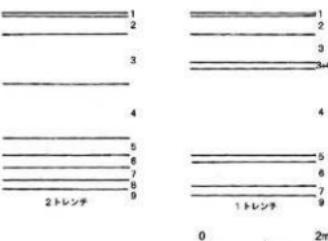
なし

(4) 出土遺物

なし

(5)まとめ

今回の試掘調査は、延岡駅周辺における初例の調査であった。旧建物がRC構造8階建ビルといった困難な条件下で、遺物包含層と推定される地層は滅失していたが、祝子川水系の砂層の検出など古環境が推察される資料が得られた。今後も引き続き周辺の諸開発事業に留意する必要があろう。



1. アスファルト
2. フィルタードラン
3. 砂質粘土
4. 廻棄物
5. 白マーブル質重質のコンクリート基礎
6. 砂質粘土質灰
7. 砂質粘土質灰
8. 砂質粘土質灰
9. 砂質粘土



PL. 24 幸町第1地点 調査風景1(東から)



PL. 25 幸町第1地点 調査風景2
(1トレンチ・東から)

Fig. 26 幸町第1地点 土層断面図(1/80)



PL. 26 幸町第1地点 土層断面
(2トレンチ・東から)

7. 愛宕山第1遺跡

所在地 延岡市愛宕山 6112番52
調査原因 携帯電話無線基地局建設
調査期間 20060530～20060612

調査面積 34.0 m²
担当者 山田
処置 工事立会

(1) 位置と環境

延岡市街地の南に位置する愛宕山(標高 251.2m)は、延岡平野の西側から貢入するように立地し、東流する五ヶ瀬川水系の大瀬川が愛宕山の手前で北東方向に転じて五ヶ瀬川と北川水系に合流し、日向灘に注いでいる。眺望は良く西を除く三方に開けており、市街地や日向灘を望む絶好のビューポイントとして広く市民の憩いの場ともなっている。

古くは笠沙岬や笠沙山とも呼ばれ、ニニギノミコトや木花咲耶姫に関わる神話伝承が伝えられている。また、慶長8年(1603)の初代延岡藩主高橋元種による延岡城(県城)築城の際、天守台跡(現鐘突堂付近)にあった社を愛宕山に移転したとも伝えられており、山頂より北麓の約23万坪(760,000 m²)が愛宕神社の社有地になっている。

調査地は、愛宕山の北麓にある標高約110mの急な傾斜地に立地する。一带は、大正10年の日本窒素肥料株式会社(現旭化成)が恒富地区に工場進出を行った影響で農地が激減したため、昭和初期に地元恒富地区が神社の了承を得て開墾された農地の一角にあたり、調査地北東角には当時の開墾記念碑が残っており、現在でも敷軒が畑作を中心とした農業を営んでいる。調査地は、北に面した傾斜地で、以前は栗や蜜柑栽培が行われていたようであるが食害等のため土地利用はされていない。

(2) 調査の概要

調査は、予定地にトレーンチを3ヶ所設定して実施した。



Fig. 27 愛宕山第1遺跡 位置図(1/15,000)



Fig. 28 愛宕山第1遺跡 調査区配置図(1/500)



PL. 27 愛宕山第1遺跡 遠景(東から)

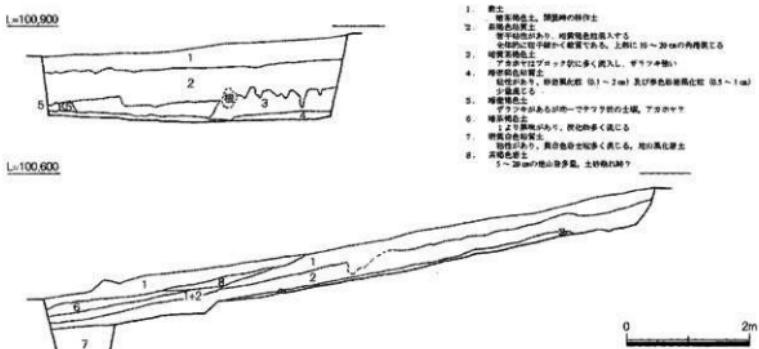


Fig. 29 愛宕山第1遺跡 土層断面図 (1/80)

調査の結果、予定地西側の傾斜に直行するように設定した第1トレンチは、他のトレンチと比較してやや寐みのある良好な土層堆積が確認され、堆積状況から開墾により埋没した谷筋の存在が窺えた。また、不明瞭ながらアカホヤの二次堆積と見られるブロック層も検出された。この他、表土直下から土師器片が少量出土し、愛宕山麓における「埋蔵文化財包蔵地」の存在が初めて確認された。第3トレンチは、第1トレンチの東に隣接して設定し遺物包含層の広がりを探ったが、反応はなく検出された遺物は谷上流域からの流入品の可能性が考えられる結果となつた。傾斜に沿って設定した第2トレンチは、他のトレンチと様相が違い、表土直下から大量の地山岩碎を検出し、他のトレンチとは様相を異にする結果となつた。

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

第1トレンチから土師器片を少量検出した。1は、高台付椀である。外面は摩滅しているため調整等は不明であるが、高台は底部縁辺に貼り付けられている。2は、小皿で外面はヘラ削りが施され、底部から体部にかけてシャープに立ち上がる。

(5)まとめ

今回の試掘調査は、愛宕山山麓における初の調査となり、少額であったが平安後期の資料が得られた。遺構は検出されず本調査の必要はないが、笠沙山信仰との関連づけも考えられ、古代から中世にかけての遺跡の存在が窺える結果となつた。内藤家史料の「井上古城之図」には、調査地付近に記載は見られないが、北谷の登山口から山頂にかけて愛宕神社に関連する施設が参道などが描かれており、史料と照合することにより詳細なデータを収集することが可能と思料される。今後も引き続き周辺の諸開発事業に留意する必要があろう。

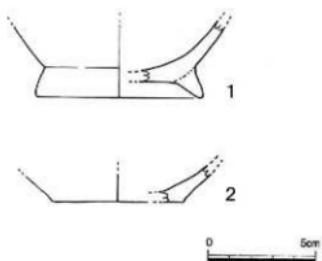
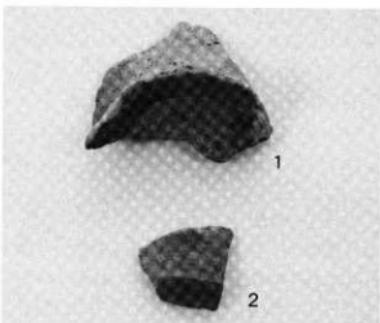


Fig. 30 愛宕山第2遺跡 出土遺物実測図(1/2)



PL. 28 愛宕山第1遺跡 出土遺物 1



PL. 29 愛宕山第1遺跡 調査風景(1トレンチ・東から)



PL. 30 愛宕山第1遺跡 実掘状況(1トレンチ)



PL. 31 愛宕山第1遺跡 土層断面(1トレンチ)



PL. 32 愛宕山第1遺跡
岩碎検出状況(3トレンチ・南から)

8. 稲葉崎町宮田地点

所在地 延岡市稲葉崎町 2 丁目 2425 番 1・2
調査原因 携帯電話無線基地局建設
調査期間 20060613 ~ 20060616

調査面積 5.0 m²
担当者 山田
処置 工事着手

(1) 位置と環境

延岡市の中心市街地から北北東約3.4kmに位置する稲葉崎町は、祝子川と北川に挟まれた丘陵及び田畠で構成される。隣接する樅山丘陵から低丘陵地帯にかけて古墳時代中期を中心とした古墳群が形成されており、樅山A号古墳(内行花文鏡・小札鉢留型銘角付骨)などが知られている。なかでも、菅原神社古墳は現存墳長110mを測る県北最大の前方後円墳で、形状の詳細は削平により不明であるが、周辺地形から推定される周庭帯若しくは周塙を含めると最大長約170mを測る九州島内有数の大古墳となる。さらに、戦後撮影の航空写真には、同墳南東約300mにおいても同規模の前方後円墳の痕跡が確認されることから、同地区は古墳時代における日向地域有数の拠点地域として存在していたと推定されている。

調査地は、菅原神社古墳から東に約250mにある標高約2mの休耕田で、古くから水田地域として土地利用が行われていた地域である。今回は、周辺に立地する菅原神社古墳等に関する遺構・遺物の有無及び層序の状況を把握するために実施した。

(2) 調査の概要

調査は、田植え前の水入れ時期と重なったため、地表面は水没状態であった。したがって、重機の活用も出来ず、手作業により周囲に土手を築き廃水処理と並行した作業となった。表土の水田層下の3層は、河川からの流入品とみられる木片を確認した。また、3・4層の境界は波形のようなラインが観察され、洪水や津波等の自然災害が関係していた可能性がある。この他、約110cm下げたが、湧水が激しく壁面が崩落するなどしたため調査を終了した。



Fig. 31 稲葉崎町宮田地点 位置図(1/15,000)



Fig. 32 稲葉崎町宮田地点 調査区配置図(1/1,500)



PL. 33 稲葉崎町宮田地点 近景(東から)

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

なし

(5)まとめ

今回は、湧水が激しい厳しい条件下での調査となつたため、期待された古墳時代関連の埋蔵文化財は確認されなかつたが、引き続き周辺の諸開発事業に留意する必要があろう。

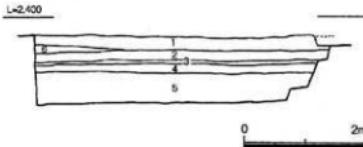


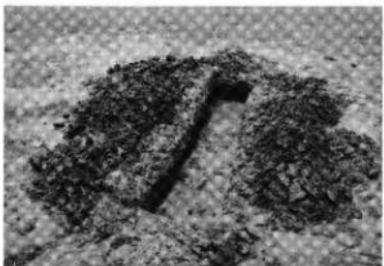
Fig. 33 稲葉崎町宮田地点 土層断面図 (1/80)



PL. 34 稲葉崎町宮田地点 航空写真
(昭和 23 年・GHO撮影)



PL. 35 稲葉崎町宮田地点 調査風景(北東から)



PL. 36 稲葉崎町宮田地点 完掘状況(北東から)



PL. 37 稲葉崎町宮田地点 土層断面(南壁)

9. 延岡城内遺跡(第15次)

所在地 延岡市天神小路 304-9
調査原因 個人住宅建設
調査期間 20060817 ~ 20060830

調査面積 18.6 m²
担当者 山田
処置 工事立会

(1) 位置と環境

延岡城は、慶長 8 年(1603)初代延岡藩主高橋元種によって五ヶ瀬川と大瀬川を天然の要害として築かれた平山城で、「県城」又は「亀井城」とも呼ばれていた。元種は、慶長 18 年(1613)罪人隠匿の理由で改易され、続いて有馬氏が肥前国日之江城(長崎県北有馬町)から五万三千石で入封し、直純、康純、永純(清純)と三代続いた。この間に県城は延岡城に改名く蓬莱山八幡宮(今山八幡宮)に寄進の梵鐘に「日州延岡城主有馬左衛門佐從五位藤原朝臣康純」>し、城下町も大幅に拡張整備された。元和元年(1615)直純の時代に元町(今の新屋町西側)、紺屋町、博労町の三町、康純の時代に大瀬川河川敷を造成して柳沢町も造られ、いわゆる延岡七町の完成に至った。承応 2 年(1653)～明暦元年(1655)にかけて城の大修築が行われ、本丸東側に三階櫓、本丸枡形に二階門櫓などが完成し、翌年今山(蓬莱山)八幡宮に前述の梵鐘(市指定有形文化財)が奉納された。寛文 7 年(1667)には、五ヶ瀬川にかかる板田橋が架けられ、新たに大瀬川南岸において武家屋敷地(新小路)が整備され、高橋元種によって着手された城下町整備も有馬康純の時代によく完成した。しかし、天和 2 年(1682)2 月(天和 3 年脱り)、本小路の武家屋敷から出火した大火があり三階櫓など悉く焼失した。

元禄 5 年(1692)、三浦明敬は日向国における初の諸代大名として下野國壬生(栃木県壬生町)から 23000 石で入封した。百姓逃散事件の後遺症が残り、藩領も有馬時代の半分以上が幕府領になっていた。藩名が県から延岡に改名され、正徳 2 年(1712)に三河国刈谷(愛知県刈谷市)に移封した。



Fig. 34 延岡城内遺跡(第15次)位置図(1/15,000)

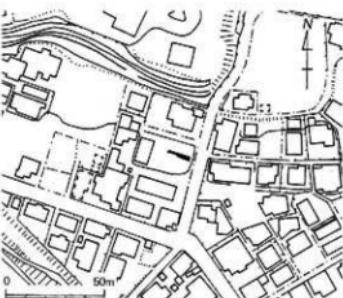


Fig. 35 延岡城内遺跡(第15次)調査区配置図(1/2,500)



PL. 38 延岡城内遺跡(第15次)近景(北東から)

その後を継いだ牧野氏は、三河国吉田（愛知県豊橋市）から歴代延岡藩最大の80000石で人封し、成央・貞通の二代続いた。日向国臼杵・宮崎・児湯・豊後国大分・国東・速見の一部を領した。寛保2年（1742）、領知80000石のうち日向国児湯・宮崎の3郡30000石を河内国茨田、近江国蒲生・野洲・栗太・甲賀、丹波国桑田・船井・天田・何鹿、美濃国不破の10郡のうちに移され、日向国1郡、豊後国3郡と併せて6国14郡となった。この時期は藩財政も窮乏し、享保13年（1728）～享保16年（1731）までの落債は70000両にも及んだ。こうした背景から、新田開発、殖産興業等が必要となり、享保9年（1724）家老藤江監物が郡奉行江尻喜多右衛門に命じて岩熊井堰工事を着手させ同19年（1734）に完成し、出北村の田畠総反別122町1反5畝23歩の増加をみるに至った。延享4年（1747）、貞通は常陸国笠間（茨城県笠間市）へ、笠間の井上氏は陸奥国磐城平（福島県いわき市）へ、磐城平の内藤氏は日向国延岡へ移封する三方所替えが行われた。

延享4年（1747）、内藤政樹は70000石で人封し、政陽、政脩、政韶、政和、政順、政義、政挙の八代にわたり、明治の廃藩置県まで続いた。内藤氏は、延岡入封によって表向き磐城平藩時代と同じ70000石であったが、飛地や山野が多いことから実質20000石余りの減収といわれ、支配体制整備、殖産興業、財政改革に尽力し、積極的な人材登用による文武振興を行った。また、郷村統治のため、大庄屋の支配する組を定めて担当代官をおき、豊後、宮崎、高千穂には複数の代官・勘定人をおいた。明和5年（1768）、本小路に学問所（学寮）、武芸所（武寮）を設置し、嘉永3年（1850）学寮を拡充して広業館に改称、安政4年（1857）南町に医学所明道館開設など行った。政挙は、11歳で家督相続し、明治2年（1869）に延岡藩知事となり、同4年（1871）の廃藩置県により東京府華族にかわり、幕藩体制が事实上終結した。翌年には明治の廃城令により各地の城の取り壇しが行われ、延岡城も同年6月に「藩城ヲ廢シ葵園トナス」との記述があり、この時期に廃城作業が行われたものと考えられている。

（2）調査の概要

調査地は、延岡城西之丸の南側隣接地で、14次調査の東側約150mの地点に位置する。調査は、予定地内の東西方向にトレーナーを設定して実施した。表土直下から建物跡の一部と見られる石組遺構の一部を検出したため範囲を広げて精査したところ、トレーナー中央部で隅石を確認した。このため、直交方向に第2トレーナーを設定して分布の広がりを確認したが、近代以降の破壊により消滅しているのが確認された。石組遺構は全て阿蘇溶結凝灰岩製の切削石を使用して小口積みに並べられており、上面に凹凸が見受けられることから2段以上に積み上げられていたと推定される。裏込めには河原石の円礫を利用しておらず、礫間から17～18世紀代の陶磁器類が出土した。この他、第2トレーナーの地表下約130cmで基盤岩の風化粘土を検出し、直上の土層から古墳時代の土師器片が出土した。

（3）検出遺構

第1トレーナーより、破壊された石組遺構の一部を検出した。

（4）出土遺物

トレーナーの擾乱層及び客土中を中心の一括資料として出土した他、石組遺構の栗石中からも検出された。各遺物の詳細については、別表に記載しておく。

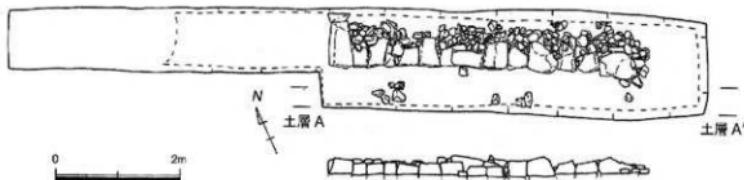


Fig. 36 延岡城内遺跡(第15次) 石組遺構実測図(1/80)

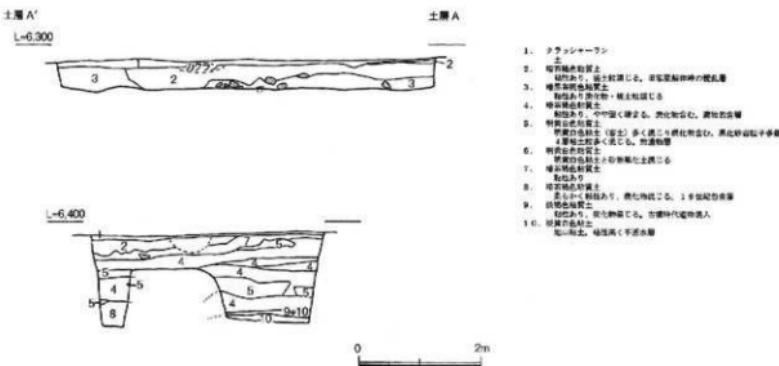
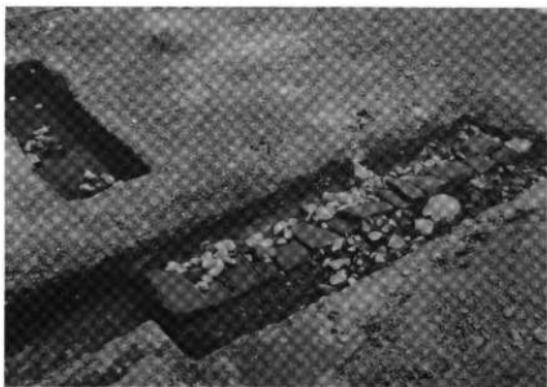


Fig. 37 延岡城内遺跡(第15次) 土層断面図(1・2トレンチ 1/80)

(5)まとめ

今回の確認調査では、整地面の表土直下から藏等の建物跡と考えられる石組遺構の一部を検出し、一定の成果を得ることができた。付近一帯は、歴代藩主の居館として利用されていた西ノ丸跡の隣接地にあたる重要地域となっているため、今後も引き続き周辺開発に留意しつつ埋蔵文化財の包蔵状況把握に努める必要があろう。



PL. 39 延岡城内遺跡(第15次) 石組遺構検出状況1(南西から)



PL. 40 延岡城内遺跡(第15次) 石組遺構検出状況2(西から)



PL. 41 延岡城内遺跡(第15次) 石組遺構検出状況3

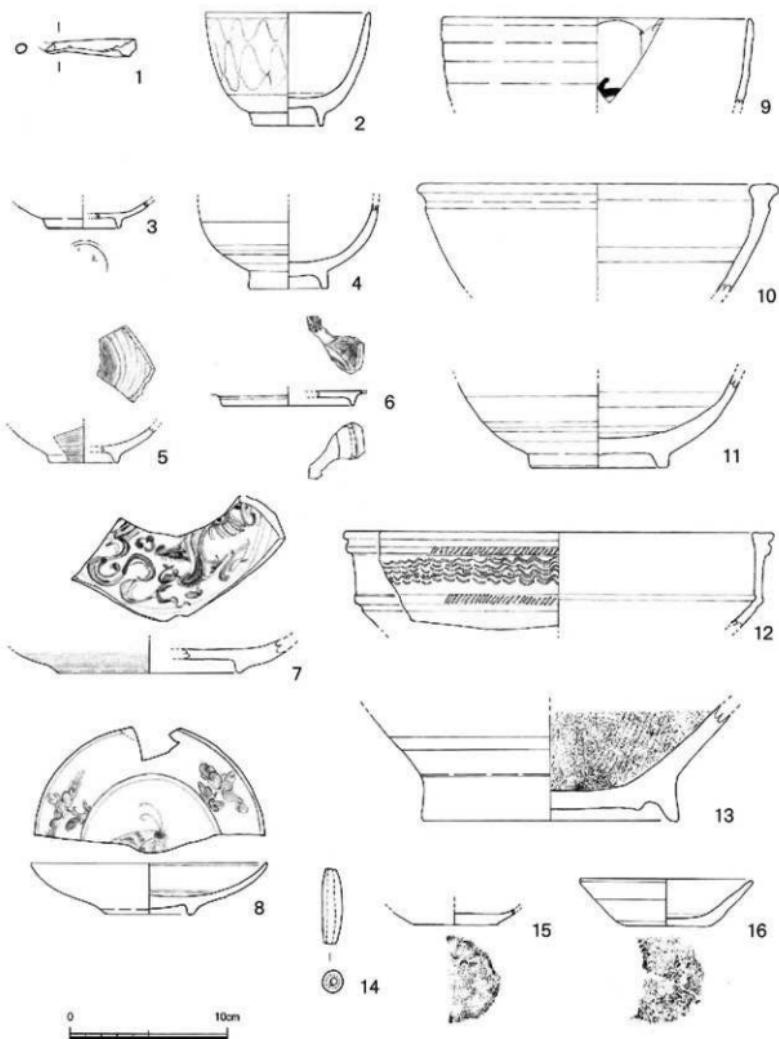


Fig. 38 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物実測図1 (1/3)

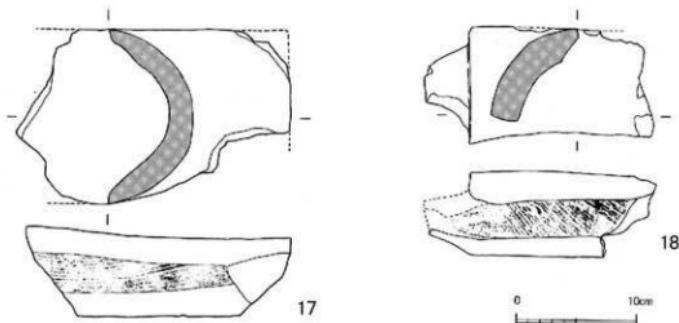


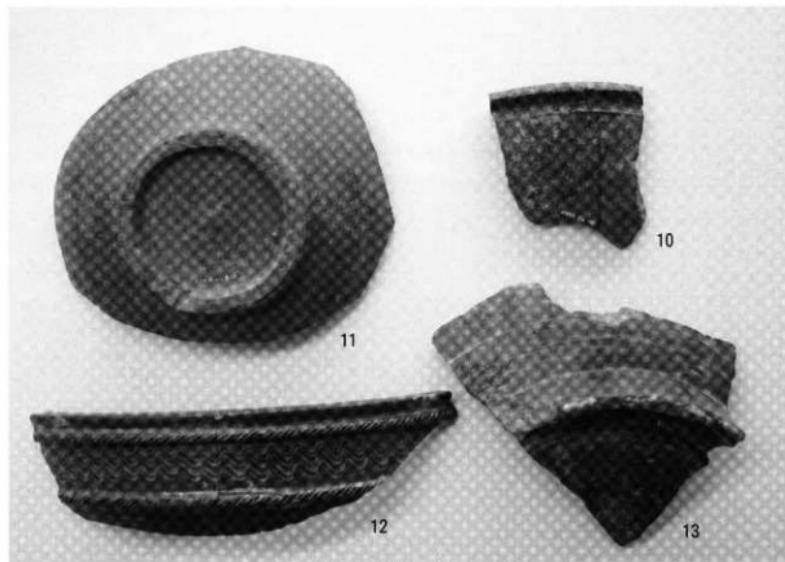
Fig. 39 延岡城内遺跡(第15次)出土遺物実測図2(1/4)

遺物 番号	種別	器種	出土地点	層位	法・量			形態及び文様	備考
					口径・ 奥底径・ 高さ・厚	幅	高さ		
1	金属製品	煙管	2トレンチ	一括	5.8	1.1	0.5	火薬欠損	19c
2	磁器	染付碗	1トレンチ	表採	10.4	4.4	7.2	外表面目文 墨付け軸剥ぎ	肥前 17c
3	磁器	染付皿	1トレンチ	土壤2		4.6		高台内面「大明成化年製」の一部乾灰・ 墨剥落	肥前 17~18c
4	陶器	碗	1トレンチ	石縫・構造石		5.2		内面手筋 内外面細かな貫入 墨付け賣點	肥前 17c
5	磁器	碗	1トレンチ	石縫・構造上		4.4		内外面白化粧土による刷毛目文	肥前
6	磁器	染付皿	1トレンチ	一括	9.6	8.0	0.9	内面花文	肥前
7	磁器	染付皿	1トレンチ	一括		11.4		外表面青花・高台にかけてたっぷりの推葉・ 見込み雲龍文 登付け露胎	
8	磁器	染付皿	1トレンチ	土壤1	15.0	5.4	3.3	内面花文、見込み織文及び二重圓線、墨 付け砂引若	肥前 17c
9	磁器	染付体	1トレンチ	石縫・構造込	19.8			内面菊花文	
10	陶器	鉢	1トレンチ	一括	23.0			内外面鉄軸	
11	陶器	瓶	1トレンチ	表採		8.6		外表面底部無施	
12	陶器	火入	1トレンチ	一括	27.4			内外面鉄軸・脚部に刷毛目	肥前 17c
13	陶器	擂鉢	1トレンチ	一括		15.0		外表面鉄軸、内面滑石は使用による摩滅あり、 貼り付け高台	肥前・18C前半 IV期
14	土製品	土瓶	2トレンチ	一括	4.8	1.3	1.3	焼成良好、完形成	
15	土製品	小皿	1トレンチ	石縫・構造込		5.2		系切痕	
16	土製品	小皿	1トレンチ	土壤2	11.0	5.2	3.0	灯明皿、口縁部焼付着、系切痕	17c ?
17	瓦	丸瓦	1トレンチ	土壤1	22.3			コピキム及び布目焼	
18	瓦	丸瓦	1トレンチ	石縫・構造込	19.0		2.6	コピキム	

第5表 延岡城内遺跡(第15次)出土遺物観察表



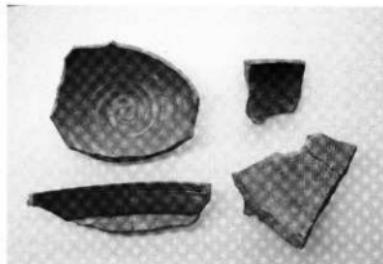
PL. 42 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物1-1



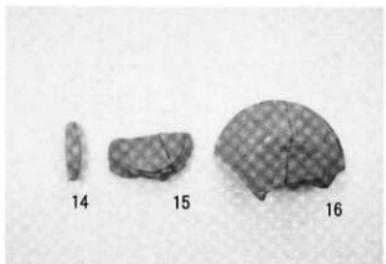
PL. 43 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物2-1



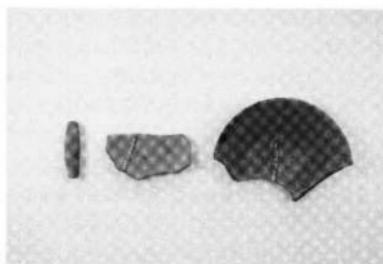
PL. 44 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物 1-2



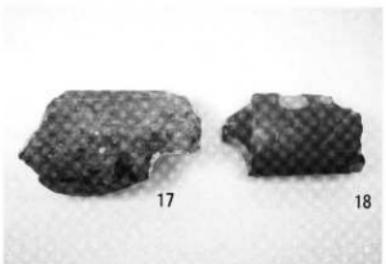
PL. 45 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物 2-2



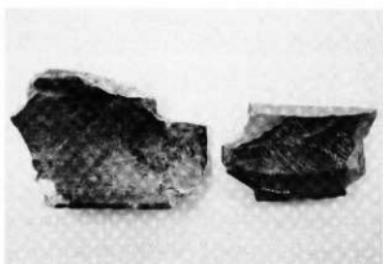
PL. 46 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物 3-1



PL. 47 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物 3-2



PL. 48 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物 4-1



PL. 49 延岡城内遺跡(第15次) 出土遺物 4-2

10. 堂ノ上遺跡

所在地 延岡市三須町 1219 番地
調査原因 仓库建設
調査期間 20060927 ~ 20061013

調査面積 19.6 m²
担当者 山田
処置 工事立会

(1) 位置と環境

延岡市の中心市街地から南東約3kmの大瀬川南岸に位置する三須町は、愛宕山から西に派生する丘陵と開折する谷水田から構成されている。字堂ノ上(以下堂ノ上丘陵)にある丘陵は、隣接する小野町にも広がる地域内唯一の平坦面を有する丘陵で、県指定延岡古墳群の三須・小野支群が立地している。このうち、1号墳は三須集落内の独立丘陵上に立地する円墳で、粘土櫛の主体部が検出され、墳丘から積上式経筒(平安後期)が出土している。また、2号墳は堂ノ上丘陵の南側端部の沖田平野の水田地帯を一望する墓地内に円墳として指定されている。しかし、旧字図に前方後円墳状の形状が描かれていることなど本地域初の前方後円墳の可能性がでてきている。この他、大瀬川を挟んだ対岸に古代官道の川辺駅跡の伝承地があることから、本地区内の南北方向に官道跡が予想されており、中世土持氏の最初の本格的山城である井上城跡(14c~15c前葉)が同町東側丘陵に立地するなど、地理的にも古墳時代から中世にかけて盛んに活動した地域にあたる。

(2) 調査の概要

調査予定地の堂ノ上丘陵は、標高約20~30mのなだらかな丘陵で、丘陵の東西には各々南北の谷が開折し、西側の谷筋には幕末期(1868)に延岡藩士の飯田直三郎らによって造られた冲田用水が通じている。調査地は、同丘陵北東端部に所在するデイサービスセンター「このみの郷」の西側隣接地で、なだらかな緩斜面を有する標高約25mの地点に立地する。調査は、掘削が予定されている2ヶ所にトレッチを設定して実施した。



Fig. 40 堂ノ上遺跡 位置図 (1/15,000)



Fig. 41 堂ノ上遺跡 調査区配置図 (1/2,500)



PL. 50 堂ノ上遺跡 調査前
(2トレッチ・南東から)

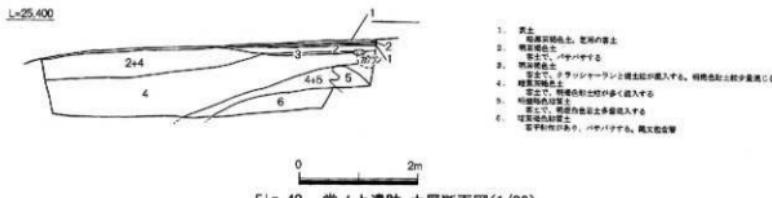


Fig. 42 堂ノ上遺跡 土層断面図(1/80)

調査の結果、1トレンチの最下層(6層・暗茶褐色粘質土)から縄文早期の包含層を検出したが、その他は大規模な客土を確認し、福祉施設建設前に土取りが行われていたことが判明した。

(3) 検出遺構

なし

(4) 出土遺物

客土及び6層から石器・縄文土器・陶磁器が出土した。1はチャート製の剥片である。2はチャート製の石核(残核)である。3は、頁岩製の剥片である。4は押型文土器で、外面に梢円押型文を施す。5は磁器の染付皿で、見込みに蛇ノ目釉剥ぎを施す。6は陶器の碗で内外面に貫入が見受けられる。

(5)まとめ

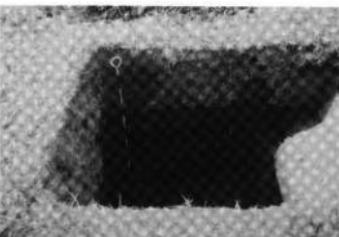
今回の確認調査では、遺物包含層の存在が期待されたにも関わらず、土取り跡の確認という予想外の展開に至り、非常に困難な小規模土取りの事業把握について大きな課題が提起されたといえる。今後も、引き続き周辺の諸開発に留意する必要がある。



PL. 51 堂ノ上遺跡 土層断面(1トレンチ・西壁)



PL. 52 堂ノ上遺跡 完掘状況(2トレンチ・東から)



PL. 53 堂ノ上遺跡 土層断面(2トレンチ・南壁)

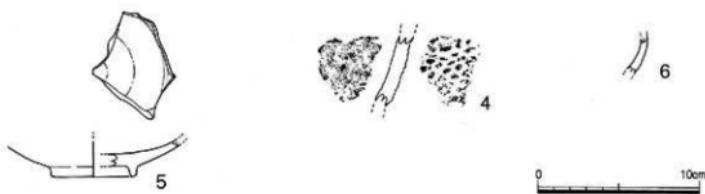
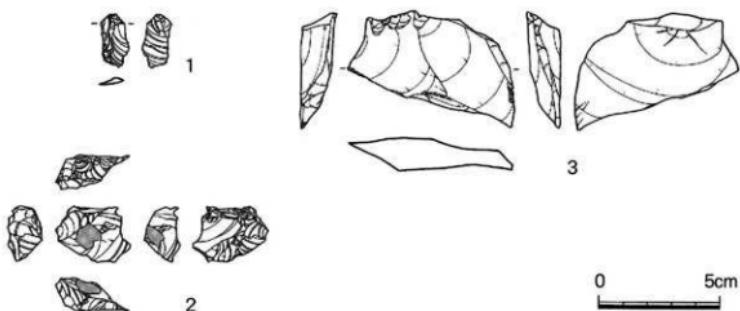


Fig. 43 堂ノ上遺跡 出土遺物実測図(1/2、1/3)

遺物番号	種別	器種	出土地点	層位	法 無 口径・柱直径・輪高・厚			形態及び文様	備考
					1	2	3		
1	石器	剥片	1トレンチ	6層	2.1	1.1	0.3		チャート
2	石器	石核	1トレンチ	カクラン	3.1	2.3	1.3	残核	チャート
3	石器	剥片	1トレンチ	4層	4.8	6.8	1.3	打面残る。下部欠損	頁岩
4	土器	深鉢	1トレンチ	カクラン				外面は横円押塗文 内面ナデ	
5	磁器	染付碗	1トレンチ	カクラン		5.2		見込み焼ノ口釉剥ぎ・二重圓線 豪付 け縁はぎ	肥前系 19c
6	陶器	碗	1トレンチ	5層				内外面買入あり	關西系 19c

第6表 堂ノ上遺跡 出土遺物観察表

11. 吉野遺跡（第8次）

所在地 延岡市吉野町 1586-2 外
調査原因 事務所建設
調査期間 20060516 ~ 20060619

調査面積 30.0 m²
担当者 高浦
処置 開発中止

(1) 位置と環境

当遺跡は、五ヶ瀬川と大瀬川との分流点付近から上流へ約300m 上流の左岸丘陵上に位置する。この付近は円墳7基からなる国史跡南方古墳群や延岡地域を支配していた土持氏一族が、文明14年(1482年)に建立したとされる卒塔婆がみられる。

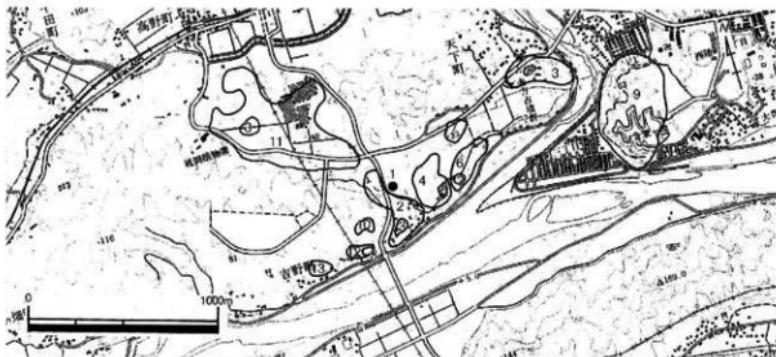
当遺跡周辺は近年開発事業が多く実施されている。西側には広域農道が南北に走り、さらに奥には平成10年に開校した九州保健福祉大学が望める。東側には平成17年に一部開通した一般国道延岡道路が広域農道に平行して走っている。

調査地から南に延びる丘陵は以前は連続していたとみられるが広域農道で分断されている。この丘陵は広域農道建設の発掘調査により旧石器時代の石器や、縄文時代の集石遺構、弥生時代の土塙墓、中世の建物跡や道路跡が確認されている。

また、調査地の北側には平成12年度に宮崎県農業共済組合事務所建設に伴う発掘調査が実施され、弥生時代の住居址1軒をはじめ、縄文時代～先土器時代の遺物が確認されている。

調査地の東及び北側は、宮崎県埋蔵文化財センターによる一般国道延岡道路建設に伴う発掘調査が平成12～15年度にかけて実施され、先土器時代の礫群、縄文時代の住居址、古墳時代の住居址、古代～近世の掘立建物跡や道路状遺構、近世墓が確認されている。

調査地を含むこの周辺は、先土器時代から近世にかけての複合遺跡が存在する地域として認識されている。



1. 吉野遺跡(第8次) 2. 吉野第1遺跡 3. 国史跡南方古墳群 4. 吉野第2遺跡 5. 市史跡卒塔婆
6. 鬼馬遺跡 7. 船岩遺跡 8. 大日寺跡 9. 西隱城跡 10. 角力田第3遺跡 11. 今井野遺跡群
12. 角力田第2遺跡 13. 角力田第1遺跡

Fig. 44 吉野遺跡(第8次) 位置図及び周辺遺跡分布図 (1/25,000)

(2) 調査の概要

調査地は付近の道路整備や宅地造成により、独立した丘陵を呈していた。調査地は南から北への斜面地にあたり、調査地は、植林が行われており杉林となっていた。

調査は、開発予定範囲内で丘陵頂部をメインとし、樹木の間を縫うような形で頂部付近に3ヶ所、北側の斜面地に1ヶ所のトレーニングを設定し、土層観察及び遺構検出に主眼を置き、人力による掘り下げを行った。

本遺跡の基本層序は、①黒色土(表土)、②黒褐色土、③黄褐色土(アカホヤ火山灰)、④黒褐色土、⑤暗褐色粘質土(⑥層への漸移層)、⑥茶褐色土、⑦黄褐色土(⑧層への漸移層)、⑧黄白色岩土(地山)であるが、トレーニング2、3、4では①、④、⑤、⑧の堆積状況であった。

これまでの本市における調査では、②～④層が縄文時代以降の遺跡が、⑤～⑥層が縄文時代以前(先土器時代)の遺構・遺物が確認されている。

トレーニング1では、良好な包含層を確認し、遺構は検出できなかったものの、先土器時代の遺物や弥生時代の高环片が出土している。

トレーニング2では、先土器時代の集石遺構1基と、藏骨器埋葬遺構が確認された。遺物は、先土器時代の遺物が多く出土している。

トレーニング3でも、先土器時代の集石遺構1基が確認されている。遺物は、弥生時代～古墳時代の土器片が少量出土している。

トレーニング4では、斜面地ということもあり層の堆積が厚くなっていた。遺構・遺物は確認さ

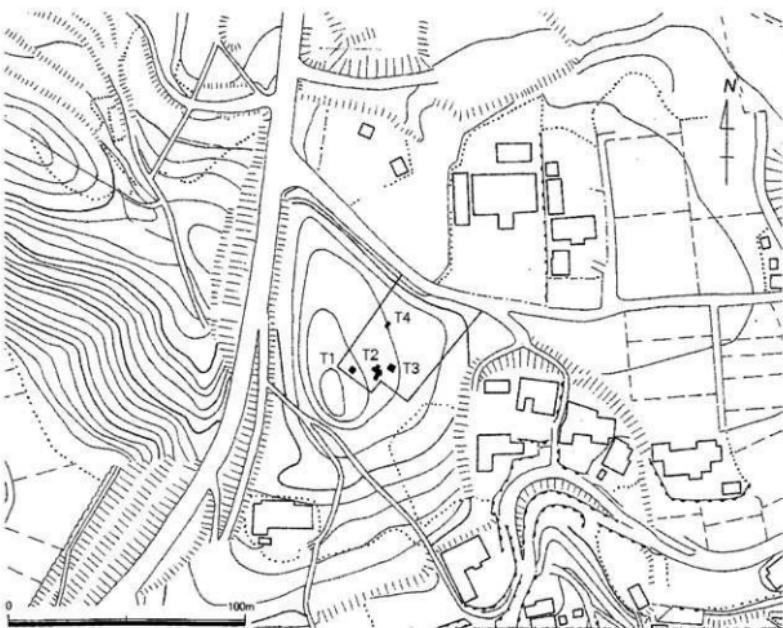


Fig. 45 吉野遺跡(第8次) 調査区配置図(1/2,000)

れていない。

開発予定面積が約 5,000 m²と広いなか、わずかなトレンチで非常に良好な遺構、遺物が確認されている。

(3) 検出遺構

集石遺構 1

トレンチ 2 より検出している。拳大程の砂岩礫を主としているが、人頭大程の礫も少量含んでいる。

礫内には、石核 1 点、磨・敲石 2 点が含まれている。一辺が約 1.2m のほぼ円形状に、焼土や熱により赤化した礫が見られる。

集石遺構 2

トレンチ 3 より検出している。拳大程の砂岩礫を主としているが、人頭大程の礫も少量含んでいる。トレンチ 2 で検出した集石遺構よりも礫が散雜でやや大きい。

約 1.2m × 約 0.8m の楕円形状に、焼土や熱により赤化した礫が見られる。

蔵骨器埋葬遺構

トレンチ 2 より検出している。約 2.1m × 約 1.8m の楕円形で、深さ約 50 cm 程の竪穴状の土坑に埋納されていた。土坑内には須恵器の壺が埋納され、壺の口には破損していたが土師器壺で蓋がされていたと見られる。

壺の周囲には炭化層が確認され、その炭化層内の壺肩部付近に 4 枚の土師器壺が共伴していた。須恵器壺内には覆土が流入しており、焼骨は残存していないかったが、その残留と見られる白い粒子が観察された。

(4) 出土遺物

トレンチ 4 を除くすべてのトレンチから遺物が出土している。数量は石器約 50 点、縄文～古墳時代の土器片約 80 点、須恵器(蔵骨器) 1 点、土師器壺 5 点である。

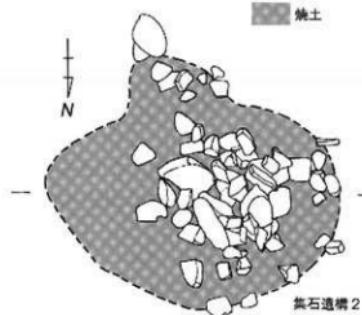
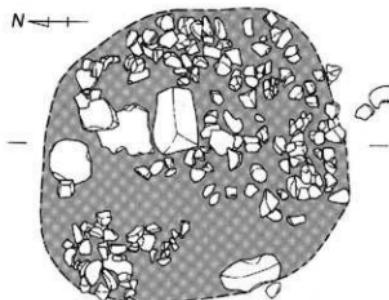


Fig. 46 吉野遺跡(第8次) 集石遺構 1・2 実測図(1/20)

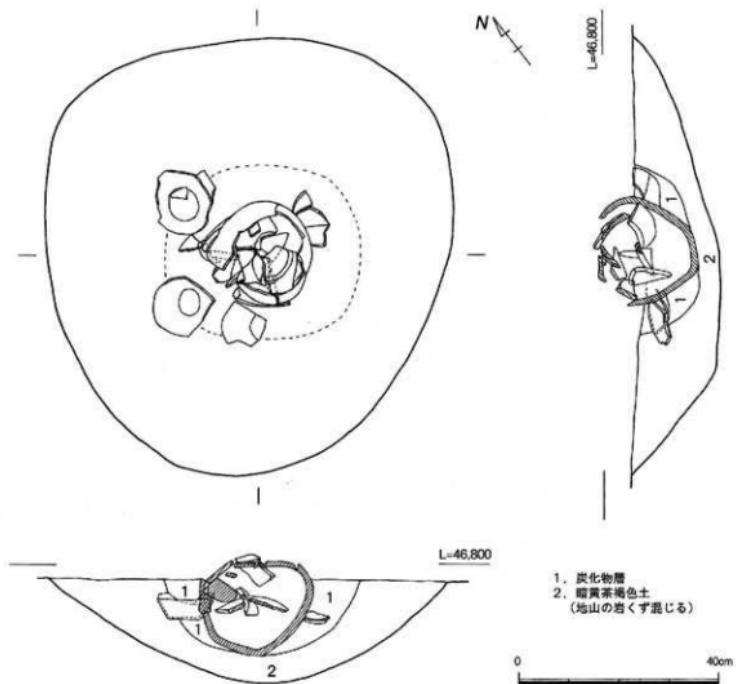


Fig. 47 吉野遺跡(第8次) 藏骨器埋納遺構実測図(1/10)

調査の概要で、比較的良好な状態で層移の堆積が確認できたと記述したが、掲載している遺物については必ずしもそうではないことが伺える。

1は細石刃である。トレンチ1から出土している。頁岩製で、幅広の逆三角形を呈している。②～③層から出土している。2はナイフ形石器である。トレンチ1から出土している。ホルンフェルス製で風化が著しいため、縦長の素材なのか横長の素材なのか、また剥離調整についても不明である。基部を形成していることが伺える。⑤層から出土している。3は流紋岩の剥片である。トレンチ2より出土している。礫面を残しており、その面から剥離された剥片素材を核として、幾度かの剥片剥離が行われている。残核とも考えられる。②～③層から出土している。4は礫面を残す流紋岩の剥片である。トレンチ3より出土している。打面を形成後、剥離が行われている。横長の素材で、一部礫面からの調整が見られることから、二次加工剥片もしくはスクレイパー的な要素も考えられる。②～③層から出土している。5は、流紋岩の石核である。トレンチ2より出土している。打面を転移させながら剥片剥離を行っている。②～③層から出土している。

6、7、8はトレンチ2の集石遺構に含まれていた石器である。6は、石核である。頁岩製で、打面形成後に一定方向への剥片の剥離が行われている。7は、敲石である。砂岩製で2分割となっている。熱による赤化が見られる。下方(礫面)に主に使用痕が見られるが、分割面に

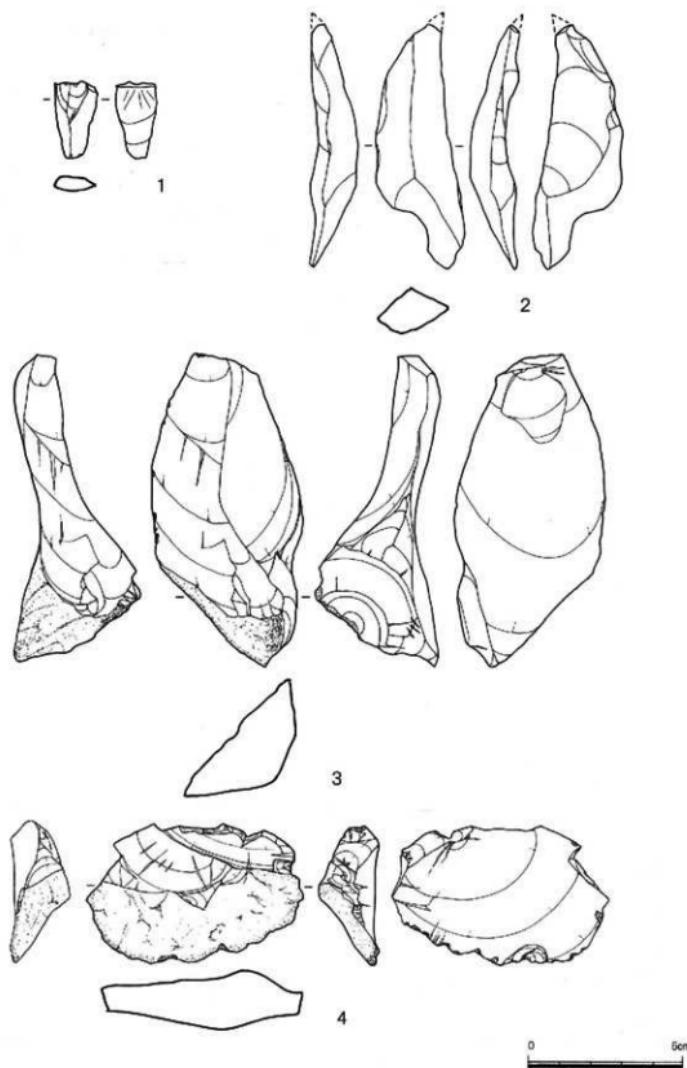


Fig. 48 吉野遺跡(第8次) 出土遺物実測図 1 (2/3)

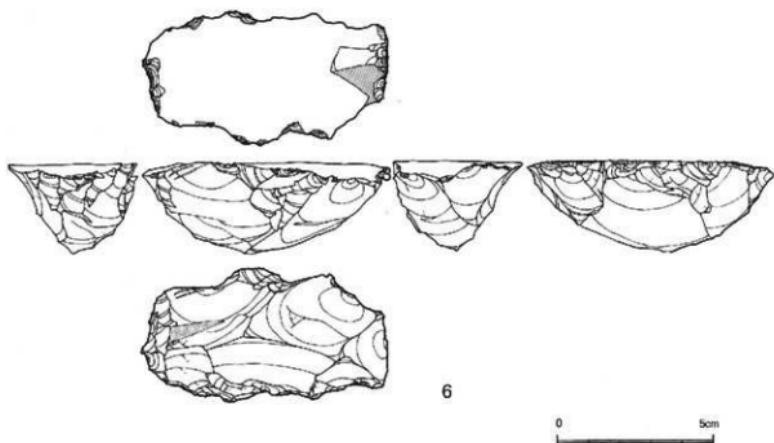
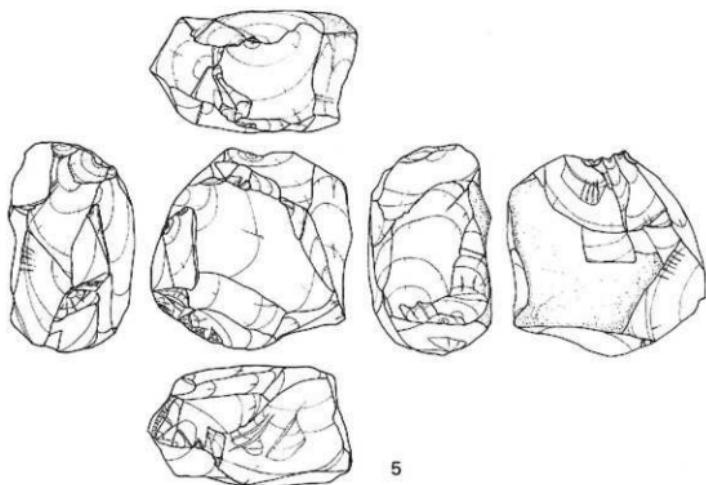


Fig. 49 吉野遺跡(第8次) 出土遺物実測図 2 (2/3)

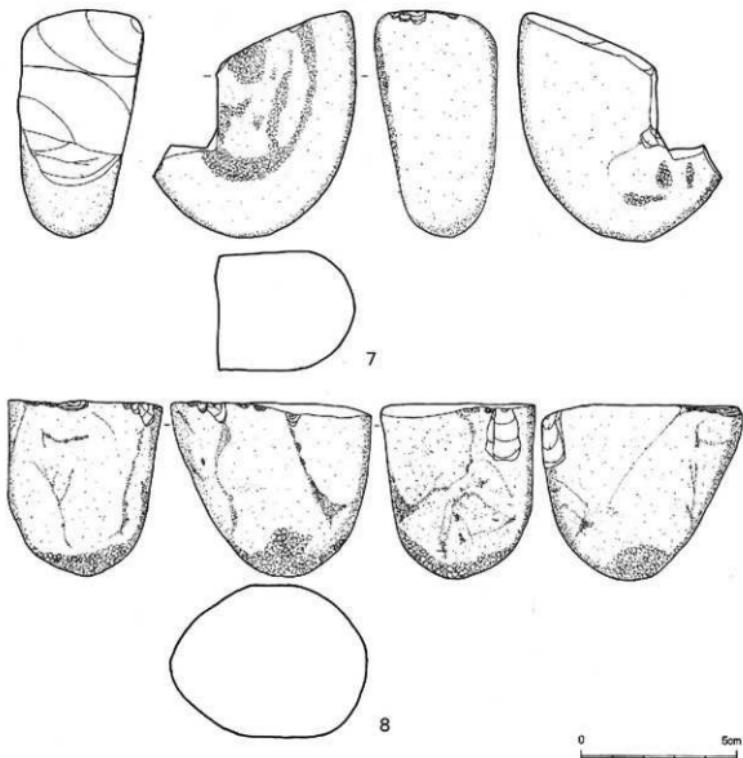


Fig. 50 吉野遺跡(第8次)出土遺物実測図3(2/3)

も若干の使用痕が見られる。8は、磨石である。やはり砂岩製で分割されている。上部平坦面に磨痕が見られる。

9、10はトレンチ1から、11はトレンチ2、12はトレンチ3から出土したものである。9は、弥生終末期の甕の口縁部破片である。口縁部下に刻目の突帯を巡らす。10は、弥生終末期の長頸壺である。口縁部から肩部のみ残存している。風化しているため不鮮明だが、頸部外面にヘラによる縦方向への調整が見られる。11は、弥生終末から古墳初頭の甕の底部である。ほぼ丸底で、外面にハケ目調整が見られる。やや風化している。12は弥生の甕の底部である。風化が著しいため、調整等は不明である。13～18は藏骨器埋納遺構に伴う遺物である。13～17は、土師器の壺である。いずれも風化している。13、15、16は、器高が高く箱形を呈す。いずれも外面はヘラによるミガキもしくはナデ調整である。13は内面と底部外面に、ヘラによるものか刻目が見られる。14と17は器高が低く、また器壁が大きく開くタイプである。17藏骨器の蓋として用いられたもので、口径が最も広くなっている。18は、藏骨器として用いられ

ていた須恵器の壺である。口縁部から頸部は埋納するためか打ち欠かれている。胴部のほぼ中央で、最大径を測る。外面の一部に自然釉がかかる。外面ヘラミガキ、内面ヘラとナデによる調整で、内面底部の器壁との境には、指痕が残っている。

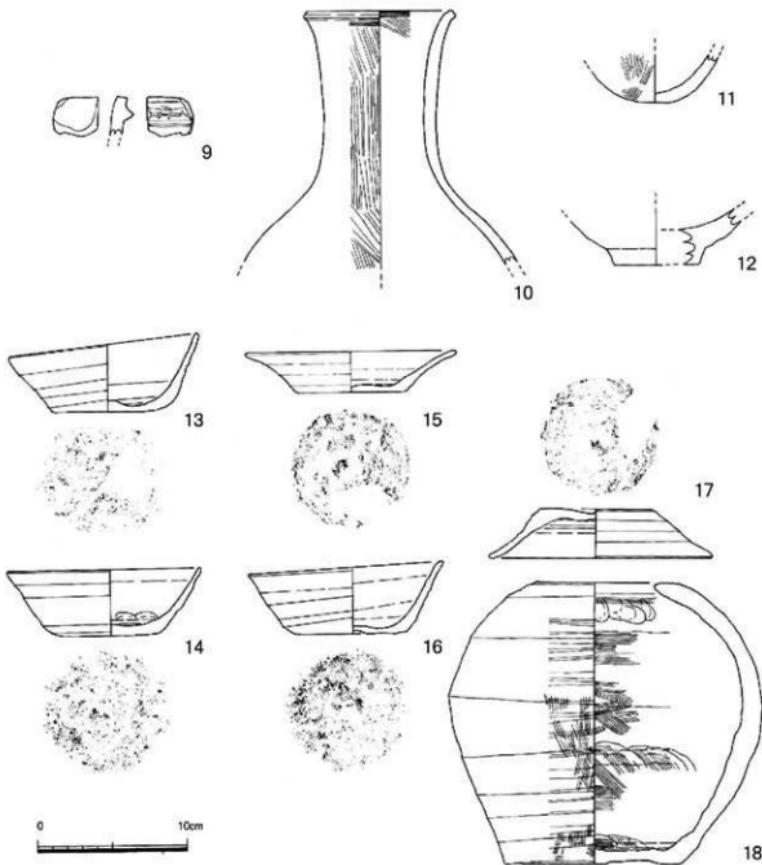


Fig. 51 吉野遺跡(第8次) 出土遺物実測図 4 (1/3)

No.	出土地	層	器種	石材	長	幅	厚	重量
1	T 1	②~③	細石刀	頁石	1.7	8.5	0.15	0.28
2	T 1	⑤	ナイフ形石器	ホルンフェルス	7.9	2.3	1.4	22.9
3	T 2	②~③	剥片	流紋岩	9.7	4.8	3.5	104.7
4	T 3	②~③	剥片	流紋岩	4.5	6.9	1.9	51.6
5	T 2	②~③	石核	流紋岩	6.6	6.2	4.0	209.5
6	T 2	集石 1	石核	頁石	7.8	3.5	2.9	90.0
7	T 2	集石 1	磨石	砂岩	11.0	8.6	5.2	507.6
8	T 2	集石 1	戴石	砂岩	8.0	9.6	6.8	553.0

第7表 吉野遺跡(第8次)出土遺物(石器)観察表

No.	出土地	種別	器種部位	法規		手法・調質	文様等	色調	焼成	粘土		
				口径	底径							
9	T 1	土器	壺 口縁部	8.4	—	—	ナデ	ナデ	淡赤褐色	淡赤褐色	良	砂粒子少量含む
10	T 1	土器	長頸壺 口縁～肩部	9.6	—	—	ヘラミガキ	不明	淡黃白色	淡黃白色	やや不良	砂粒子多量含む
11	T 2	土師器	壺 底部	—	1.8	—	ハケ目	ナデ	赤褐色	赤褐色	良	砂粒少多量含む
12	T 3	土器	壺 底部	—	5.4	—	不明	不明	浅黄色	浅黄色	やや不良	砂粒子少量含む
13	T 2	土師器	壺 口縁～底部	12.5	7.4	4.4	ヘラ	不明	淡黄色	淡黄色	良	砂粒子少量含む
14	T 2	土師器	壺 口縁～底部	14.0	7.2	3.7	ヘラ	不明	淡黃茶色	淡黃茶色	良	砂粒子少量含む 1cm 程の黒斑じる
15	T 2	土師器	壺 口縁～底部	12.8	7.0	4.35	ヘラ	不明	浅黄色	浅黄色	良	砂粒子少量含む
16	T 2	土師器	壺 ほぼ完形	12.9	7.1	4.7	ヘラ	不明	淡黄色	淡黄色	良	砂粒子少量含む 1cm 程の黒斑じる
17	T 2	土師器	壺 口縁～底部	15.2	7.4	2.9	ヘラ	ヘラ	淡黃茶色	淡黃茶色	良	砂粒子少量含む
18	T 2	須恵器	壺 完形	7.4	11.3	18.4	ヘラ	ヘラ・ナデ	淡灰褐色	灰色	良	砂粒子微量含む

第8表 吉野遺跡(第8次)出土遺物(土器)観察表

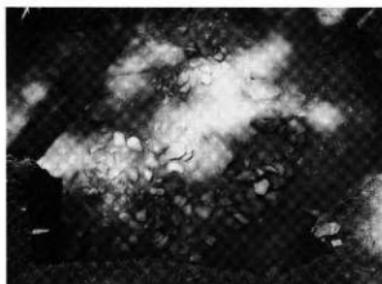
(5)まとめ

吉野地区は古墳群をはじめ、これまでの調査で先土器時代～中・近世までと幅広い時代の数多くの遺跡が確認されている。今回の調査地は、わずかな調査面積で良好な遺跡が包蔵されていることが明らかとなった。特に藏骨器の検出は、延岡市において初めてとなる事例で、不明な延岡市の古代の歴史を考える上で貴重なものとなった。延岡市は古代の歴史環境が不明であるが、今まで確認されている数少ない同時代の遺構との比較検討を行い、その解明に努める事が必要である。

吉野地区はこれまでの調査を踏まえ、今後も周辺の開発の際には、慎重な調査が必要である。なお、今回の調査から当該地区に埋蔵文化財が確認されたため関係箇所と協議を行った。その結果、遺跡の重要性を鑑み開発は中止されることとなった。



PL. 54 吉野遺跡(第8次) 調査風景



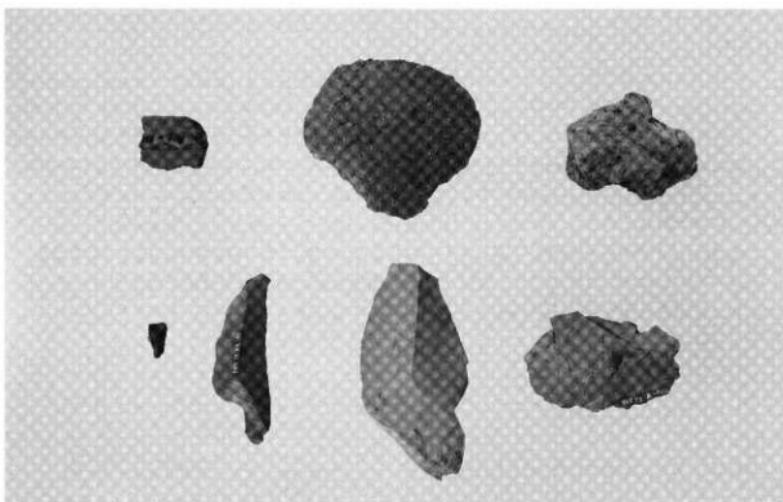
PL. 55 吉野遺跡(第8次) 集石造構1(2トレンチ)



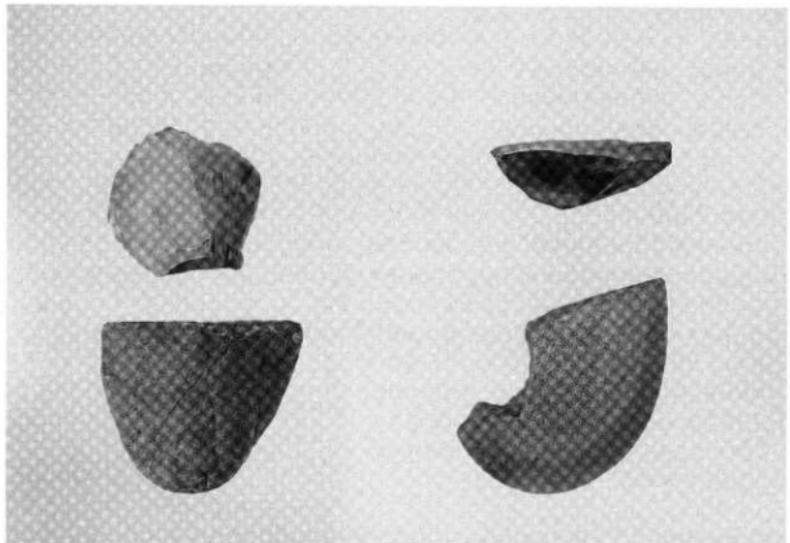
PL. 56 吉野遺跡(第8次) 集石造構2(3トレンチ)



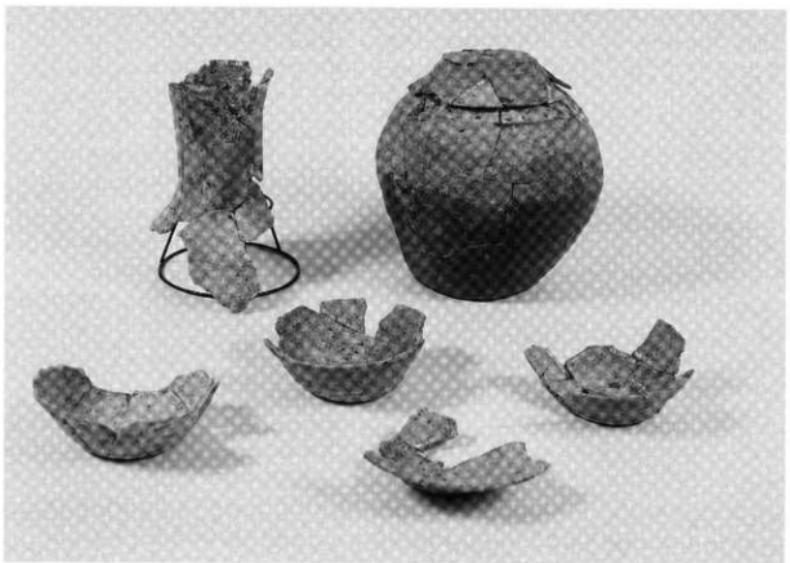
PL. 57 吉野遺跡(第8次)
藏骨器埋納遺構(2トレンチ)



PL. 58 吉野遺跡(第8次) 出土遺物1



PL. 59 吉野遺跡(第8次) 出土遺物 2



PL. 60 吉野遺跡(第8次) 出土遺物 3